類字名所和歌外集 三上

六アサキユメ

セミシヱヒモセス

へ利 4
1237
3 上

宗楓図書

浅茅原　大和　高市郡

万三
浅茅原つはらつはらにものおもへはふりにしさとしおもほゆるかも

古事記
あさち原をたにをすきてもゝつたふぬてゆらくもおきめくらしも

顕宗紀　日本紀十五
浅ちはらをそねをすきてもゝつたふぬてゆらくもよおきめくらしも

陽春廬図書

小墾信　伊勢　員弁郡

垂仁紀云
いつき信いやふさゝひいちちまやふさゝひ

清紀

菟楼園　大和　高市郡

延喜六年日本紀竟宴歌　式部少丞紀朝臣
いにしへをめくりてそ清くかすも見えぬるかもかゝれきよきし　叙木之人

類字名所外集巻第六　阿行

安

阿後尼原　山城　宇治郡

一万十三　長哥
ちはやふる宇治のわたり瀧のやのあこねのはらを

阿弥陀嶺　（枕草子嶺は　とふよ入）　同

懐中
をしへくはちすのかゝる名をたてしあみたの嶺はゆかしくそ思ふ　（よみ人しらす）

家集
今よりはあまたの家の月かけとおなしの坂をたのむへきなれ　公任

京坂　同　葛野郡　仁和寺辺

後拾遺集に京の家のあるかしこ仁和寺に京坂にいふ所にいまつくりてすみけるに

遊岡　大和

いまつくるあるとしもかなあちかしやはやくもなをとゝめなむ

夫木　家集
節分のやらぬかうらハあふさかのせきやをしなかるまん　公任

阿保山　同　八雲

一万十
あほ山のさねきの花ハけふもかも（かき）散みたるらん見る人なしに

私六
阿保山と名にこそたてゝ（遠）遠めつゝ峯のさねきハ花咲にけり　行家

天河　同　吉野郡
（ミとまうし入り）

夫木
よしの山をとこもみよしのゝ川雲のつゝくとほらふる沼　俊頼

同
花の色とひとつにみえて天乃河雲乃波こそやみよし野山　師光

同　ころや
高間山雲井にかゝる月乃ちかゝらハ天の川なかれもうけぬ月を取る　匡房

阿騎野　同　宇陀郡

一万一
こゑまふるはなの大野ゝをさゝきしのすかりなき　人丸

同
秋のゝり宿まてひとこそあまなといはねはやをいまはつたなき　匡房

青安山　同　八雲

一万一（なきこ）
耳成の青菅山ハそともの大御門によろしなへ神さひたてり

浅小竹原　同　同

同十一
秋なひのあさこさ原乃女郎花をみつゝもあかぬ心ちこそすれ

名寄
ゆふされてをさゝかせも秋なひの浅さゝそよき秋萩の花

夫木
うちぬるゝころもの秋かけて秋なひの浅小竹原の露の下草　衣笠

荒山　同　和泉

同
あらき浅茅ふれ女郎花いかねらふよ露おきすらむ　良経

同
いらなるあら山さくら咲ぬらしよしのゝ滝のかゝるしら雲　公朝

織通　同

貫之集
かきくらしはやりしらぬ大空にあやなくはなのあまの原や

枕草子
あふ坂によ道まのを猪さへぬきて織通（とそ）いふなるをきけ
（すかゝのの）

霰松原　摂津　住吉郡

万一
霰ふるあられまつ原住の江のおとひをとめと見れとあかぬかも　長皇子

建保
みなと入の月影つくるさゆる夜はあられまつ原しもさえにけり　俊成卿女

同
浦風の霰ふるなり吹よせて玉まつ原に結ふ白浪　[illegible]

同
なにはえやあられまつ原しもさえて風にみたるゝ鳴千鳥　[illegible]

味經原　見于孝徳紀

同　東生郡　味原（アチフ）　和名

万六
おきつ鳥あちふの原にものゝふの八十とものをはいほりしてき　金村

同
ゆく人のこえまちかくやあちふのゝ[illegible]あらぬまき

安針小野　同　文禾

夫木
[illegible]のひとかたまりの[illegible]ふりしなかめそ　仲実

上竹小葉野　同

万十三
妹かミあけさゝはのゝはなちこまあれにけらしもあはぬおもへは

堀百
[illegible]あけさゝはのゝ[illegible]　俊頼

万代
妹か髪あけさゝはのゝはなれこま命をも我あはぬ玉かつらかな

十二
ふるさとゝなりにしあけ小竹のゝ[illegible]　家隆

味野原　同　まつ

堀百
[illegible]　顕仲

朝香山　伊勢

万八
時まちておつるしくれの雨やみぬ朝香の山のうつろひぬらん　市原王

荒木田　大和

同七
ゆたねまくあらきのをたをもとめんとあゆひ出ぬれぬ此川の瀬に

同十六
あらき田のしゝ田の稲を倉につみてあなひねひねしわかこふらくハ　忌部首黒丸

納代濱　伊勢

夫木十七　寛平菊合
[illegible]波の下くさ　よみ人しらす

夫木集
[illegible]の濱は[illegible]

（夫木なと）
あさふかき[illegible]にあさてきて[illegible]とゆる（[illegible]）

朝明山　同　（朝明郡名也）

（名寄）
子の日する朝けれ山のこまつ風に霞とともにちかくなる　（為家）

細見山　同　（八雲）

（万代）
いせの山いかにくもれるけふのさきてしこの暮にしゆゑ　（[illegible]）

阿波羅乱浦　同

皇大神宮儀式帳云
御坐地度會郡宇治里伊鈴河上之大山中四至云々　[illegible]
北比奈多嶋旭嶋志婆埼酒瀧嶋阿婆良岐嶋大嶋屋（[illegible]）
嶋歌嶋都久毛嶋石島牛島小島等為海堺云々

同
さわ立松[illegible]ゆかむいさや浪あらくなるらむ[illegible]風　（[illegible]）

同
風さむく[illegible]の月清[illegible]　[illegible]

安濃　（阿乃浸田　杉原）　同　（安濃郡）

同
あら山[illegible]

同
伊勢の海にあまのかくる浪あらみ松のたちえはしの[illegible]　（西宮左大臣）

同
吹かせや伊勢をちとはいみさえし[illegible]の川[illegible]　（[illegible]）

同
ありあけは安濃の浸田[illegible]あさまの[illegible]　長明

（[illegible]）
このころは月に秋ある浪のうへ[illegible]田

（夫木）
伊勢の海の浜何たにも[illegible]日数り浪[illegible]　（[illegible]）

（同女）
いかなるか[illegible]風さえて[illegible]伊勢の[illegible]　寿念

熱田　尾張　愛智郡

[illegible]

（夫木集）
鶯の[illegible]秋のこゝろや[illegible]風に吹[illegible]

（拾遺）
[illegible]伊勢の[illegible]　仲実

両山　参河　（夫木抄又有家）

（夫木）
[illegible]　為忠

夫木 九三
永らふるやよろつへり阿さけてもえてたてゝみは霞たつしみゆる

朝明山

同　朝明郡 名乙

名寄
子のねぬる阿さけの山のよる風にきぬとをしちきりくる　忠辰

細児山

同　八雲

万代
何ぞの山いかにしくれてはそのきさしていまし紅葉しみゆる　帝原王

阿波羅気嶋

同

あさけれは嶋いくつるこの中りにはるしくいつへは渡り出つ

（ありきその名にあらはき嶋々いつかうかれとありけれいはるかの中かに浮本さ生ぬいつかありとゆるくるかかしし）

名寄
こゝ迄り松をゆかむいかしきや嶋ありぬくむ阿しゆうの風　前参議入道

同
風とうく何をいうのまその月隠とけしあらしてみえる　素覩

安濃

阿乃湊田　松原

同　安濃郡

同
きくらにあさしくえしてゆかしきまうりいはかむ阿乃くまのかな

同
伊勢の海えまくりかくる浪のうへに松をくまぬ何のしかりの海　西園寺入道

同
ゆふなきや伊勢をちかひみえてし何の川のりにあらりなくも　従二位 家隆

同
おもいらは安濃の湊田中のしいかいゆるぬしもえぬあさま方　長明

新後
こゝのりの月は秋ぬる浪のくまのまたひゝぬあのいとゝまて田　

夫木
伊勢の海阿の三河まつの下いとし日数り浪をこえ渡り　為家

同廿八
いつのこゝはかへる風さえて秋くるや阿の塩見ゆるし二のもり　寂念

熱田

尾張　愛智郡

（何つのえゆふ来にまてもりくゝる阿ちかしくかてまきりてもの風りあくらはてものゝねいしかし）

万葉集
笥のもりゆのこゝろやうりもんあつのそ風に吹きまぬりかり

堀百
思ひやる阿つのこの風いさり火の阿のもえりぬやあかりふとさくると　仲実

雨山

参河　夫木抄又尾張

夫木廿
あめ山りくつるけこや杪のこれあめのいつきへ時雨つこころかりけん　為忠

（為忠朝臣三河守為家人）

同
（夫木）
五月雨はさゝのはわけにさやの中山ゆふくれの雲いかゝちかふる

安禮之崎　同　（仙覚抄）

（一万一）
いつくにか舟はてすらん安禮の崎こきたみ行し棚なし小舟　（高市黒人）

天中川　（今いふ天龍川）　遠江

（顕昭）
天つくも中なる川の名のみしてわたるやすのつまならん　（長明）

（顕注云天中川ならぬ名のミなれは天の川のうちにやあるへし）

三代実録元慶七年遠江国阿渡河川田
次第損せいはん阿渡河川田
あるへきたることのかはりや

（一万七）
あられふりとほつあはうみのあと川やなきかれともまたもおふといふあと川やなき

（名寄）
春されはふるきあともなき川やなきかはやなきふみもかはらす　（家隆卿）

麁玉　郡同

（和名　麁玉　阿良多末　今称有玉）

（一万十四）
あらたまのきへのはやしに名をたてゝゆきかつましゝいをさきたゝに

（霊亀元年四月遠江地震山崩壅麁玉河水為之不通経数十日潰没敷智長下石田三郡民家百七十余区并損苗　宝字五年七月癸未朔辛丑遠江国荒玉河堤決三百余丈役単功三十万三千七百余人充粮修築）

浅間　駿河

（あさましやふしのけふりも絶ぬへきみのうへしらぬあさまなるらん）

（夫木集）
つくまゆきもえまさるらん浅間なる山のゝ川の底ゆく玉

遠沢　同

あつくされてらむをかはしの沢の下にやいの流る草　（長明）

葛海　相模

（みをなかた）
今こそはありしよりけにこのかなの海をあくと升りゆかん　（光行）

（顕昭注云此歌相模の国なりと云へるにや又この海と思ふは其身の名もたるへし）

葦河　同　（夫木）

同
五月雨はさゝ波のあさき浜名の山ゆかりたえぬ清きなかれん　知家

懐中
夕山に浜名の雲はたちかけりくもりてのこるみえかくれける

安禮之崎　同　仙覚抄

万一
いつくにか舟はてすらん安礼の崎こきたみ行したなゝし小舟　高市黒人

天中川　今ハ天龍ト云リ　遠江

海道記
天つかせ中なる河の名のみして[illegible]やこゝろのわたりかねん　長明
（記云天中川わたれは流の[illegible]渡船[illegible]やうなし）

吾跡川

万代集
ひきまかふあとかはの川そこきよみ清きなかれの折にそ小舟
一万七
霰ふる遠江（とをつあふみ）のあと川やなきかれゝとも又もおふてふあと川やなき

名寄
春雨はふるともみえぬあさみとりあとかは川やなきふかみとりなり　宗尊親王

麁玉　郡河　同
（和名麁玉阿良多末　今称有玉）

一万十四
あらたまのきへのはやしに名をたてゝゆきかつましゝいをさきたゝに

霊亀元年四月遠江地震山崩壅（ふさく）麁玉河水為之不流経数十日潰破敷智長下石田三郡民家百七十余區並損苗　寶字五年七月癸未朔辛丑遠江國荒玉河堤決三百余丈役単功三十万三千七百余人充粮修築

淺間　駿河
（さるかみしふしの池はいなかなるをいふなれはしりといふへし
のふしなる田まてにかきいへる）

萬葉集
つたへきくあさまそこもんなかなるみくし河の底ゆく玉

遇沢　同
あしかれのかくれかね浮島沢の底の池やへ人の浮草　長明

蒼海　相模

夫木廿三
今よりはふしの山もかくれし河の海の浪まにかくれと社てらすやこそ　光行
（海道記云箱根山[illegible]宿をたちて[illegible]湖の[illegible]又[illegible]海[illegible]）

早河　同　夫木

夫木
一すちにかけてそたのむかはのをちに　知家

安津山　同　夫木女　信実

えそしらぬあふ山のなみたのむ心もなくあはれ

麻績山　同

名寄
穂しのにかゝる山のあかつきのはるかのみちのよはのあり

阿比中山　同　私名　陸奥歌　安房　同
ここをいはなくてまし

山家
かへりこむ中山のなかをゆくへの心はなきあ

阿弟那山　同　八雲

万十七
あかねさすのやまのひとめのよそにいふなり

阿賀妻沼　兵庫　同

拾玉
しらせてもしるへなきれかたるのなかのあやめは　慈鎮

阿須波神　上総

万十四
みなの中のおきつの水にしらぬはしらすしてなにはかくてに

夫木
人のみの妹をやいかにまてはかの小松をみる　信実

常陸國風土記新治郡
自郡以東五十里在笠間村越通道路
称葦穂山

葦穂山　常陸　仙覚抄　新続紀

しほ山あさなさなはねをきてかくに

葦穂山保のなかに秋のこのはかな　某

悟浦　同　同

名寄
えしまのうらゆけはしのやまの浪のさはりや

芦間山　同　同

夫木
みなもせの入江のそらのきよくて芦間の山よ秋かやとしる　後九条内府

乞瀬渕　同

名寄
なかれてはあふせのしらぬ浪のうきなかれてしまぬ　宗尊親王

阿度川　遊　近江

夫木
一夜ねしかやのまろやのあけかたにあはれなかれし何の川なみ　行家

安積山　同　夫木女　信実
ことゝへてしるへあさかの山の井のあさくはなしとおもひけるかな

麻積山　同
名寄
おもひたにかゝらぬ山のさせもくさたれかいふきのさとはつけゝん

阿比中山　同　和名　陸奥　安處八々
山家
かつきえやかゝる中山ほとゝきすまつほとのこゑはかりきくらん

阿蘇那山　同　八雲
万十四
あそのたかねのかりひとはあのあひつなきそてはなれなり

阿賀夫沼　武蔵　同
拾玉
こゝろくる人てるてらすかきあかのぬまにあやめはかる　慈鎮

阿須波杜　上総

一万廿
にはなかのあすはの神にこしはさしあれはいはゝむかへりくまてに

続古
今よりは妹かへるさやいのりつゝあすはの宮に小柴さしけむ　続後

葦穂山　常陸　仙覚抄　新続古

一万十四
筑波根にそかひにみゆるあしほ山あしかるとかもさねみえなくに

夫木十二
はるかなる角くみのこえし葦穂山結はおくなき秋はこえなむ　家隆

悦浦　同　すけ
名寄
こゝろよりあしのうらゆくたつかねもかゝるそらのなみのうへかな

芦間山　同　同
夫木
あしかもの入江のさはのほとりにて芦間の山の秋のゆふくれ　後九条内府

芦瀬潟　同
名寄
たちかへりあしせかたにたつ浪のそれにしまたしゆきのしるへに　家長朝臣

阿度川　湊　近江

土佐国漢(?)文庫

百七
宇治のわたり川浪はさえけしも宇治のかはらに鵜ねかすなる

同九
足利をは清瀬にみえたうしまの河瀬の瀬にありさまゝ

同
宇治のあさ川なみはやくも鵜舟は木ふかくいかりおろしてそ

同
たうしまの河瀬の浪もさえ〳〵て橘の小しまにいそくらん

ふる木　浦上
浦やとよ河霧のたちまよふやまもとを とはなれ鐘かく

万葉集
久木生る河原の清き浜にはちとりの枯ゝに宿るなかく

同
花ちるをおしむの川瀬も見えて秋ふとこひしかるも

新古
河そひの木に雨はしけくなるみのこすゑ小紅葉ちるらし

浅井岡　同　浅井郡

五木
秋はまた浅井か岡の小萩そよむもそれやもん千代の秋かな　隆光

青木里　同

名寄
木枯の風は吹しきちらまきのさとやいつも秋をなかむらん

或人云阪国郡番傍澤の山八丁計ほとにあり

赤坂　参河

五木
赤坂とまよふのわたりに月すみて見えたるかな玉のつゆ　為忠

同
秋ふかくなりにけり赤坂の紅葉の色も月まさりけり　登世

同
向ひなるたもとそれか赤坂のみちにもさきはしられ　為相

まち野京　同

千五
いふき山ゆきまちつる峯くもはれ雪の京をやとる　為世

安布気関　信濃

名寄
信濃なるやまかふかくの有なりしはてしなき関のいとふしき　為家

逢初川　同

きみのなるあふそめ川のかはそてもむかしの秋はなれしものを

安太師野山　同

懐中
秋きりのたちのまよふれきみのたつ名をおもふてのしかの山

安蘇山　上野

万十四
上野のあそのまそむらかき抱きぬれとあかぬをなとかあかせん

同
かみつけのあそ山つゝら野をひろみはひにしものをあせか絶せむ

夫木
袖ぬらしかゝる山路はまつゝらなかみとひゝき今は[illegible]　為家

名寄
吹おろす安蘇山あらしふきさえて冬[illegible]つめよる

赤城社　同

勢多郡延喜式
赤城神社名神大

夫木廿四
上野や[illegible]のかゝやくの色をはいてゝ紅とそみむ　[illegible]

綾瀬　陸奥　夫木

同廿四
[illegible]の瀬の紅葉のちりしきたちまよふ[illegible]　能因法師

[illegible]

吾田多良　同

万十四
陸奥のあたゝらまゆみつらはけてひかはか人のわをことなさん

同十四
[illegible]

同
みちのくの[illegible]

帚木　同

伊勢
園原のふせやのまつれ人のこゝろやうのつらいさしいまそと　是則

[illegible]
そこ人は帚木の[illegible]　社季

夫木
かくれつゝ[illegible]　能因

今本二句ふせやにおふるはゝきゝの
落句あはぬ君かな
十五石

園原のはゝきゝのまつと[illegible]　兼明

同廿二
ふる里の人[illegible]帚木の[illegible]　基明

荒野牧　同

俊頼
みちのくのあらのゝ牧の[illegible]　俊頼

善恐関　[illegible]

安蘇山　上野

万十四
上野のあそのまそむらかきむたきぬれとあかぬをあとかあかせん

同
かみつけのあそ山つゝらのをひろみはひにしものをなとか絶せむ

夫木
袖ふれしかなし山のはれまつゝらあやとひのこし今は恋わたり　為家

名寄
ゆふされは安蘇山あらし吹さえて冬せまる庵に霜てつもれる

赤城社　同

（勢多郡 延喜式　赤城神社 名神大）

夫木卅四
上野乃やまとはいつくのかみやあらはれてゐるとまれる赤城なる神　よみ人しらす

綾瀬　陸奥　夫木

同廿七
あやの瀬の紅葉のしきたちはさえ錦くわたるたつた姫かも　能因法師

（此哥いさゝか不審とありけにやあらん陸奥の所にてよめるにあやれてさる）

吾田多良　同

万十
陸奥のあたゝらまゆみつるかけてひかはか人のわをことなさん

同十四
あたゝらのねにふすしゝのありつゝもあれはいたらんねとこなさりそね

同
みちのくのあたゝらまゆみはしきおきてせらしめきなはつらはけめかも

姉葉　同

伊勢
栗原のあねはのまつの人ならはみやこのつとにいさといはましを　業平

続古
ゆく人は姉葉の松のなにしあれはたれやむかしのあとをとおもひいつらん　祐挙

夫木
かくてのみつれなかるらん姉葉の松の雲は老あかりけり　社本

同廿一
千五百
行かぬ身の姉葉の松はかはらねと涼風吹しき続へけり　能因

同廿二
栗原の姉葉のまつとまちしかとときはいろにもかはるらむかは　家隆

ふる里は人すみけんもむかしにて姉葉の松のひとりのこれる　光明

荒野牧　同

御集
みちのくのあらのゝ牧のこまたにもとれはとらるゝ馴ゆくものを　修理

末㣲関　同　・・

六帖
あね[illegible]のやまかれ[illegible]河[illegible]しなかし

阿古也松　同

拾百
お[illegible]河れ[illegible]あこやれ松[illegible]　家仲

夫木（名寄古今）
みちのくのあこやの松に木隠て（こかくれて名）出へき（つき名）月の出やらぬかな

同
陸奥れ[illegible]月[illegible]

安[illegible]山　若狭　夫木

同廿
春のくれ月ゆくへりなる時そ[illegible]いつはこゆらむ　よみ人しらす

味真野　越前　（和名今立郡味真）

万十五
安知麻野に宿れる君かかへりこむ時のむかへをいつとかまたむ　狭野茅上娘子

十二
阿知麻野に[illegible]夕月夜[illegible]秋[illegible]　家隆

朝津橋　（清少納言にはあさむつのはし）　同　（和名丹生郡朝津　阿佐布豆）

夫木廿一　旅中
あさむつのはし[illegible]渡し[illegible]

同
[illegible]あさむつ[illegible]

同
誰[illegible]のねさめてきけはあさむつのとゝろの橋をふみとゝろかし

同
こひてむ人のこころ[illegible]あさむつのはし　宗家

安乎能浦　越中　（見于万葉八雲　英遠[illegible]）

万十八
あをの浦によするしら浪いやましにたちしきよせくあゆをいたみかも　家持

有明浦　越後

夫木廿六
浪のおと[illegible]有明のうら[illegible]越路の[illegible]有るけ　為実

天照社　丹波　（丹波何鹿郡[illegible]社）

夫木卅四
大江山むかしの跡のたえせぬはあまてる神もちかひ[illegible]やあらん　丹波忠茂経

遊浦　同

夫木廿八　旅中（夫木廿九）
[illegible]みなと[illegible]の海れあ[illegible]に[illegible]し　よみ人しらす

穴憂里　同

：

名寄
まふしくものれさやこねまほん人のこころのぬ花ふさてみえれ　紀家

朝来山　但馬　（和名朝来郡　朝来阿古佐）

みかわ　但中
秋の色はいさこの山のもみちはいさゝまへおもほえん　よみ人しらず

有木山　備中

夫木
万代をかけ里ありきの山の白かしのときはのまゝに立枝まさゝる

同
ありき山今あはれとも見えぬさく人めならぬ松のみやもと

葦田川　備後　（能因歌枕備後あしたの川）（葦田郡　葦田　和名阿之太）

同サ也
待かねて何をそ別しあしだ川あさくはいかゝ袖にとまらん　よみ人しらず

同か文
ときくるあしたのかはよりうきしは波にかきのこそなく　源兼明親王

芦山　安藝
（万葉集にあしのやまのはまなきを見えし　あしのそ）

あしひきのあしの山をまなくなかれつゝさつきのなかもあるにさくれ

夫木
ちはやふる安武の郡の名にし桜はまつらん人さへまちわたる　光俊

安武郡　長門

赤間関　同

散木
ちぎりしあかまの袖はいかに身をしほのしるまの浪にそいける　俊頼

拾玉
あかまのゆく袖をあかまかれ寝覚れやうきみのたえにあまのかゝる　慈鎮

阿弥陀寺　同　歌袋

歌袋
うきよしを阿弥陀の寺に咲く花をながきよまでと名をそとゝめん　紀伊

阿胡根浦　紀伊

万一
わかほりし野島はみせつ底ふかき阿胡ねの浦の玉そひろはぬ　中皇命

海部郡　同　（和名阿末郡　海部）（尾張　阿波　同名　一郡有）

名寄
はしふねはあまのをぶねにのりしあまのよるしほの郡のかゝやさそふらし

飽浦　同　（仙覚　肥前　伊勢　安藝等ニアリ）

万七
網引するあまとや見らん あくのうらのきよきありそをみにこしわれを　人丸

合壁　同　名寄

雲葉
こわまし長ゝまふみまし あれはしけき葦の露にさえけり　行家

有間村　同浦

同　仁平萬歌

名寄
紀の国やありまの村にます神の たむくるものはちとせなりけり　大炊御門右大臣

夫木
神まつるもめのみさやありまの村にいろゝゆふ　光俊

同
春風の梢にさそふ紀の国や ありまの村の神まつりかな　よみ人不知

衣笠嶺

同
夫木
人をなほうらみつれなき風のやとに 忍ふのゝのこゝろなりけり　慈鎮

神無月しくれはいつもやけれ 嶺の月にもしくれけり　西行

粟嶋　周防
（神代紀云遂為夫婦先生蛭児便載葦船流之次生淡洲此亦不以充児数此淡嶋也）

万十
いつしかもみむとおもひしあはしまを よそにやこひむゆくよしをなみ

同
あはしまのあはしとおもふ妹にあれや やすいもねすてあかこひわたる
（右周防玖珂郡麻里布浦行之時作哥八首のうちなり 周防の海のなかにある嶋なるへし）

同九
百伝ふやそのしまわをこきくれと 粟の小嶋はみれとあかぬかも
（右倉無之濱とある歌の次に載て右二首或云柿本朝臣人丸作といへり けいひなしの濱豊前にありてつくしへのかれけるにや かれは六帖にも国の部にいれて阿波の国とあへてこそ 萬葉集へいりてある粟嶋とある頭倉無之濱とよみたると合せて右 二ところともにその所なるへきや）

同十二
波のまゆ雲井にみゆる粟嶋の あはぬものゆゑ我によそるこら

粟嶋　山　阿波

古事記
淤志弖流夜那尓波能佐岐用伊傳多知弖和賀久迩美
礼婆阿波志摩游能碁呂志摩阿遅摩佐能志麻母美
由佐氣都志摩美由

万三
むこのうらをこきたむ小舟 粟嶋をそかひにみつゝともしき小舟

同四
あはむかふあはちをすきてあはしまを そかひにみつゝ

同七
あは嶋にこきわたらんとおもへとも明石のとなみいまたさはけり

同六
まゆのことくも井にみゆるあはの山かけてこく舟とまりしらすも　船王

足代濱　紀伊

同七
あしろすきていとかの山のさくら花ちらすもあらなんかへりくるまて

安諦郡　同　名寄

[illegible]

荒津　海濱湊　筑前

同十二
白たへの袖のわかれをかたみしてあらつの濱にやと

同
草まくら旅ゆく君をあらつまて送りそくれは[illegible]

同
荒津の（海）わかぬさまつりいはひてんはやかへりませおもかはりせす

同十五
神さふるあらつのさきによする浪まなくや妹とこ

同十七
あらつの海しほひしほみち時はあれといつれの時かわかこひさらん

新勅撰羇旅
蘆屋　灘里　同
（[illegible]信生法師あしやに侍る時）
[illegible]あしやの沖の[illegible]　信生

新続古今羇旅
[illegible]　よみ人しらす

夫木
[illegible]

拾遺
[illegible]

同
[illegible]

同
[illegible]

蘆城　相河山　同

万八
女郎花秋はきましるあしきのゝけふをはしめて万代にみん

同
玉くしけあしきの川をけふみては万代まてにわすられめや

同
あしき山こすゑことことあすよりはなひきてありこそ妹かあたりみん

夫木廿　讃中
[illegible]

同七
あはしまにこきわたらんとおもへとも明石のとなみいまたさはけり

同六
まゆのことく雲井にみゆるあはの山かけてこく舟とまりしらすも　船王

足代濱　紀伊

同七
あしろすきていとかの山のさくら花ちらすもあらなんかへりくるまて

安野郡

同　名寄
わかれしもさもあらはあれやかへらいふしらゝ霜をときなけり　紀之

荒津　海濱浦

萬葉

同十二
白たへの袖のわかれをかたみしてあらつの濱にやとりするかも

同
草まくら旅ゆく君をあらつまて送りそくれぬあきたらねこそ

同
荒津の（海）海我ぬさまつりいはひてむはやかへりませおもかはりせて

同十五
神さふるあらつの崎によする浪まなくや妹にこひわたりなん

同十七
あらつの海しほひしほみち時はあれといつれの時かわかこひさらん　大伴旅人

荒津ハ博多ノ
三代實録ニ
言去月廿二日
艘來博多津
綿即時逃竄
同巻十二月十
大神宮ニ奉幣
宰府處〻言
艘筑前国那
豊前国乃貢
逃退彡こゝ

葦屋　須里

新勅撰
はるかなる芦屋の沖のうきねにも夢ちはちかき都なりけり　俊成
（安野郡中也芦屋浦葦屋津も似たる詞也）

新續古今
こゝのへの宮こあしやの風なれや濱ゝなかれゆく川白なみ　まさ

夫木
はるゝ舟ことつてはるかなるやよねてしをとねとさす

拾遺
かつみれはかひのなかなるあかつきのかやの沖にちかへる月け

同
わかまつるこゝろのはてしれぬ葦のはそよくあしやの中の秋の中ふくれ

同
津の国のなにはやをさしてこゝろしてこそ芦屋やまかくしゝる

葦城　埜河山

同

萬八
をみなへし秋はきましる芦城の野けふをはしめて萬代にみん

同
玉くしけあしきの川をけふみては萬代まてにわすらえめやも

同
かゝき山本まてしあはましおもひしれそ妹かあたりを

萬十　夜中
こゝにしてあめ山つゝみけいつこの山をかけさつむこしや一夜ねん

待ふさきつらんとおもへとも明ぬるをいそきにたゝりつ

[illegible]雲井にきゆる[illegible]の山かくして舟まつりをまつ　船王

足代濱　紀伊

あしろ過ていとかの山のさくら花ちらてあらなん帰りくるまて

安須耶　同（名寄）

[illegible]　行之

荒津　海濱　泊　しろた

への袖のわかれをかたみしてあらつの浜にやとりするかも

[illegible]旅ゆく君をあらつまて送りそくるあきたらねこそ

の（海）家ぬさまつりいはひてんはやかへりませおもかはりせて

ふる荒津の濱によする浪まなくや妹にこひわたりなん

の海しほひしほみち時はあれといつれの時か我こひさらん　大伴旅人

荒津ハ博多近辺也
三代實録貞観十一年六月太宰府
言去月廿二日夜新羅海賊乗艦二
艘來博多津掠奪豊前国年貢絹
綿（即時逃竄）
同巻十二月十四日遣使者於伊勢大
神宮奉幣告文曰去六月以来大
宰府度々言上（多良久）新羅賊舟二
艘筑前国那珂郡乃荒津尓到来天
豊前国乃貢調船乃絹綿乎掠奪天
逃退利多ト

葦屋　濱　里　同

（[illegible]）

[illegible]あしやの沖の[illegible]　俊成

[illegible]あしやの[illegible]　よみ人不知

[illegible]

[illegible]の沖に[illegible]

[illegible]あしやの里の秋のゆふくれ

[illegible]あしやの[illegible]

葦城　（[illegible]山）　同

[illegible]秋[illegible]万代にみむ

[illegible]の川を[illegible]万代まてに[illegible]えめやも

[illegible]妹[illegible]

[illegible]

有千潟　同　八雲

（夫木廿　懐中）ありちかたありなくさめてゆかめとも家なる妹いいふかしみせん

安波湊　[illegible]　夫木

（万十二）ことさらはいまもなかなるみなとかせもりてや秋のよの月なかめ見ん　摂津

暁山　未勘

（夫木十二）きぬくのあかつき山の木のまより（康平四年二月禖子内親王名所歌合）[illegible]わかれ[illegible]見ん　[illegible]

（月清）[illegible]雲もとゝめぬ冬のよの月[illegible]あかつきの山　[illegible]

安可見山　同　[illegible]

（万十四）あかみ山草根かりそけあはすかへあらそふ妹しあやにかなしも

蟻門渡　能作

（山家）さゝ浪のよするありとを朝ことにあさりやすらん蟻のわたり

味潟　未勘　[illegible]

（万十四）あちかまのかたにさく浪ひらせにもひもとくものかかなしけをおきて

（同）味かまのかけの湊にいるしほのこてたすくもかいりてねまくも

阿美志園　同

（夫木廿一　永承八年五月中納言泰憲家歌合）白浪を吹よる風に見ゆるなれあみしの園に[illegible]

有田川　能作　同

（拾玉）世をいとふ心もありといふ田川岩まにかゝりすみてなからふ　慈鎮

阿野　同

（夫木）なく人のなきかとそいはんなきにはあのゝ[illegible]　為家

麻葉河　同

（同）みなかみのあさはの川の川風に秋ときくさる波の中にそ　[illegible]

阿斗村　大和　読人不知

（[illegible]集）庵のとに[illegible]よそにけり[illegible]あとの村さと

朝ア　未詳

六帖
かきくもりはるもちかけて朝野のさゝてえとめひかりぬるらん

芦火里　同

家集
かのみえりまそめつくさて人なくて淋しさまさる芦火のさと　祐挙

安た人池　同

同廿三
あさんの池かくろつも志ゝなくにいさゝめくもいひいたるらし　二条太宮
尾張

同
よそえてん心かきこめしらぬふいきたのまむゆくさんのけけ　衣笠

秋山　同

同廿
秋夜月この家にかけしそらまれは名をしへにきえる山とこそみれ　右京大夫
長明

秋風嶋　同

同廿七　祐挙集
ちるかけのひかんのうへにつくはかりのけさとふん秋風の雪

此哥いふれのとの秋風ひかんへかけてたき嶋といふにすくなりて
りくに秋風の嶋といふ所ありのきとかくしあいておほつかなし

天境　同　筑前

夫木集
天の原あ月つゝて庭とか川のなにふるさとるりきえぬ大かたのかり

（集にはつゝてしみるゝ家よとはなこれしてもむかしあまつみてふとさるゝと
下の句ゝもくとしそれ）

清女納言はいはまこひの里はあまひの里かふひのさし
涮いあとゝいゝひふちゝてさゝおかしりれ蔵人所の雑ふく毛
くてまゝされいかあるのさうすこと

和名　筑紫玉能
筑前上日阿左日
下日ユウ二

さ

狭井河　大和

城上郡　和名狭井
坐大神荒魂神社五座

古事
さゐかはよ雲たちわたりうねひ山このはさやきぬ風ふかむとす

相楽山　山城

八雲
相楽郡

一万三
さからかの山の山のまにゆきすきぬれは

桜井里　同（大和右同名）

正徹集　六月さくら井にしはしやすらひしに涼しけれは
夏なからあたりもゆるさくら井はまた花くらきおもかけの月

夫木廿七　さくら井も月
さえくれは花ちるなかにさくら井の名のこりをなかるらかなかるる　（為家）

名所（石清水社歌合）
ゆきとしてにくる井ちゝさきかみ山ふかくの名をのこすらん　（経光）

同
秋の夜の月はちからふかみなけれともいやおもふに桜井の里　（実方）

後拾
見るまゝに暮の色にはなかむらん秋は月にかくるゝ桜井の里　（顕季）

山家
小芹つむ沢のこほりのひまをかみ春あさきさくら井のさと

夫木
桜井のはなかさかりは花をとて秋はかくれる月をみるらん

佐田岡　同

万二
朝日てる佐田の岡へにむれゐつゝ我なく涙やむ時のなし　（八雲）

同
よそにみし佐田の岡へに不知雲は橘の都にかたまさむ

同
朝日てる佐田の岡へに鳴鳥の夜なきかへらふこのとしころを

同
さほの内の綿のさやかにはなかめけり佐田の里へにさらのわたしゆ

佐紀　大山　　同（佐紀沼　和名）

万一
秋さらは今もみることつまこひにかなかむ山そたかのはらのうへ　（長皇子）

同十
春のなりとさきの山に月もあかねさしてまさに咲る桜の花もさえて

同四
をみなへしさき沢におふる花かつみかつてもしらぬこひもするかも　（中臣女郎）

同八
春山の岡さかきやまりわかれつむ妹か白細衣てかくしも

同十
をみなへし咲野におふる白つゝしゝらぬこともちいはれしわかせ

同十一
垣緑額の閑沢の草を笠にあひまつ日を待にたえてへする

同十二
をみなへし咲沢生る葛わかのなかやましりこえあかさる

同七
をみなへし折野のゝ花を秋されは花の錦とかけてやかする

佐比河　権名　山城

古今集
すまうりさひかは

すまうのあたりやまに我たさひかはめましくもるへかりやまさくよし
俗に
すまうの河辺にやまにくあさかはにつるさくらむかい人の住せ

坂門　大和

万十三ちやうか
鳥網なる坂門をすきて石はしる神なひより

續日本紀第三十一光仁紀第一云又當寺新落時童謡曰葛城寺乃前在也豊浦寺ノ西在也於志止度刀志止度桜井尓白壁之豆久也好壁之豆久於思止度刀志止度然而波国曽サカ由流也家皆良昌由流也於志止度刀志止度

讃良　日本紀　更荒（サラ）

河内　讃良郡

新六
はるかなるさらゝの河内路ふすにさとへめてりふ衣かへつゝ

佐太池　川永　上野又和泉

同　つゝ　万葉和名　茨田郡有ニ佐太郷

六帖三同六
氷もとけぬゆるさそさしも佐太の池なりのめかりあけ衣かむ　信実

名寄
一もとの松よりゆふむさゝ川り枝さしをはや冬さしこそ

佐野松原　池

和泉　八雲　名寄抄

同
なかれよるものゝたかた流れつけとふこえゆく佐のゝ月かけ　後京極攝政

夫木廿九　後京極攝政家百首の内佐太のかはらにて
冬の日をいかにかけても私もていなにかなむ此きよかた吹あらし風　定家

同
なにとなく佐野のはまかけにしく跡やはかまちかしふまてまたまくも　隆祐

六帖
今朝はまた秋の野はらをふみなれてはかなくもなる佐太の池より　光俊

堺浦　和泉　大鳥郡

夫木廿六　壬二集　家女三十首
ゆくふねの堺の浦に網あみてしくれふりやひくらん　家隆

同
見し秋の堺の浦の松風もいまはあらしによするなみかな　為家

万七
はつせ山佐備の山のもりのはしたかのあとをさりていもとわかぬる

佐備山　攝津　八雲

同四
ゆふ山の山五百重(いほへ)かくれるさ堤の崎さしへ(?)あれ(?)も行しかなみ　家持

佐堤崎　攝津

山家
はるかなるゝ島のすたひとよするなみのまもあからすのはなよおもひやるかな

鷺嶋　同

櫻田　尾張　愛智郡　和名抄（愛智郡有作良郷）

万一
さくら田へたつ鳴わたるあゆちかたしほひにけらしたつなきわたる　高市黒人

新六
山もとの色ふかきかたはさくら田のおりしもとまりやとりやせむ　光明峯寺

夫木
あゆちかたしほちかるらし桜田のかすみの風にたつ鳴わたる　公朝

さくら人又のあそひしあかつ田植まちかねてこそくれにけるかな

櫻楷　同

名寄
つらねしはあめのさかなり人しれすはらはよわりこえわたるかな

相模池　相模

夫木卅三
布さしはらやさゝらなみの池のさゝ（又名寄）はなをまつかなれぬまにしつや

相模小野　同

古事
さねさしさかむのをのにもゆる火のほなかにたちてとひしきみはも

相模嶺　同

万十四
さかむねのをみねみかくしわすれくる妹か名よひてわをねしなくる

楼野　同

夫木廿一
あふさかる野をとりけしとめつゝはたをそまれるはのゆみかな　九条
（此哥ハ建長五年ゟつきへ下野国にてよみ侍りける小さかき方をよみてまゐらせける）

埼玉津　又池沼　武蔵　埼玉郡

万九
さきたまのをさきの沼に鴨そはねきるおのかをにふりおける霜をはらふとにあらし

同十四
さきたまの津にをる舟の風をいたみつなはたゆともことなたえそね

夫木卅四　非名　埼玉郡社
やはらくる光をそふかきなかれてもなをかけてさきたまのもりや　西行

曝井　同　那珂郡　和名抄（又有那珂郷）

万九
三栗のなかにむかへるさらし井のたえすかよはんそこにつまもか　よみ人不知

新木
さらし井の水のしらいとゆふかれし夜寒の衣ぬのさらしけり　信実

夫木
山かけのゝきはさらるさらし井のあかつきのえ沢さみつみれの法

同
みくりのゝ中をもひてもなにならむなくなくまつに井のあるはつ　久明

盃井　**上総**　（夫木廿六旅中　能因歌枕）

夫木廿六
東路にはてしもなくいつかはとめしこの井に影をとゞめん　よみ人しらす

佐加登之

夫木
あさましやはらからのみやかはるらんあかぬわかれにまたやあふらん　光俊

徒路　**舟橋**　**近江**

同　（大嘗会悠紀方屏風）
山されはまのへめくしなかりけりなほしまとまくわたるかな　匡房

同廿二　（修理続篠原）
篠原やはのくるゝさとちまちさかまし旅ゆく人とまらむや　仲正

後拾遺
はみくさのおもふにしあなたなりさきのつまをくさこえのはしる　清正

同玉
名高きのふもとの関のほかのえのなるゝわたる人のなかれ　左大臣　後雅册

小竹生嶽　同

桜山　**谷**

夫木　（寛治元大）
みえなからさくら山をも花さかり萌えそふいろはひとしからなん　匡房

名寄
はるかなる山をもかすむ心のうちに旅ゆく人のたちやすらはむ　政宣

大かれまさきのあさのもかすむさくら山のはのあけほの　定家

家集
はるゝ山桜のゆきかけちるは花とまかふた人もなき花まさりける　上西門院兵衛

夫木
春ふかくはるゝ谷のみゆきはなさきもあるらむ花のちりまかふ　俊頼

続古
桜あめはるかなるゝ花をまつしたに秋ことにはさくらかけ　俊成

夫木廿一
わかなみやさくら谷より落ちくる浪のさきけれあらそふかな　俊頼

続集
桜えり枝さしかはす山おろしの春やのこれるらん　慈鎮

名寄
はるゝ山ちるさくらもなかりけり風ふかはあまのよしなは　俊成

増入江　同

夫木
さゝ浪やはるひのかげもみえわたり旅人まつはしのわたりに　光家

篠原

万 ことゝはゞいかにこたへむしのはらやとほくなりゆくいまやこや

醒井　美濃　不破郡

名寄 ゆきなやむ人もあはれとさめかゐのきよきなかれにいくよやとらむ

同 むすふ手にかゝる心とまつそしる浮世の夢やさめかゐの水　宗尊親王

同 わくらはにきてもみるらしさめかゐのきよき清水にやとる月かけ　安嘉門院四条

同 くみてしる人もすゝしく岩根よりわきてなかるゝさめかゐの水　為家

辟田河　越中　射水郡

万十九 足引の山下ひゝきおちたきちなかるさきたの川の瀬に　あゆ

同 くれなゐの衣にほはしさきた川たゆることなくわかへりみん　同

同 年のはにあゆしはしらはさきた川鵜やつかつけて川瀬たつねん　同

名寄 はやき瀬をゆくてにあゆのさきた川のかはへにうかふ夜はのかゝり火

堺浦　越後

堀百 舟とむる岩根をつくるさかひ川みなとなれは人もかよはし　顕季

佐渡海　佐渡

十二 佐渡の海や吹くる風のかはるらしなみも秋たつころにそありける　家隆

佐々連石山　丹波　天田

玉か 君か代のいはひにかさねんねの松の杉たてるさゝれいし山

佐太浦　出雲　同

万十一 奥津浪へなみきよする佐太の浦のこのさたすきて後こひむかも

同十二 佐太の浦によする白波あひたなくおもふをなにか妹にあひかたき

十二 ゆふくれはいさゝさためぬさたの浦の浪のいくたひかへりみんらん

名寄 人とはゝおもひいてゝもさためなき佐太の浦なみたちかへりつゝ

耳鏡橋　越後　越中歟 越後ニ 夫木

夫木廿一　旅中
く浦のあまなりし川りゆきかへりやまさやまの橋名のひくらん　よみ人しらす

佐波郡　周防

同廿三
山風はふかきよの浦を吹やまは津のかりいかなくなるらん　祐挙

雑賀野浦　紀伊

万六　長哥
左日鹿野ゆそかひにみゆる奥津嶋　赤人

同七
紀の国の雑賀の浦にいてみれはあまのともし火浪のまゆみゆ

夫木廿七
紀海のきしのめくりはおきつもと妻の目くしかつく海士人　行能

坂上

万九
その山は菅乃雄のふもとのあたり鹿もなくらし坂上まて

逆川　池田不知所　同

夫木廿七　寿永二年
あちきなくよのなかをさかさまにはいるさか川の瀬にもしらなく　浄雲

同
世の中はさかさまなりとしるくせのちやはやき逆川の水をいかにせん　為家

同廿一
ゆくしまくのあまのといかてなんとくさきはるかまの池　祐挙

桜間池　阿波　亦名云名方西郡

夫木廿三
かくみしるくさきのとそくる人はちるさくらのさくらの池　よみ人しらす

狭岑嶋山　讃岐　那珂郡

万二　長哥
遠近の嶋ハおほけれと名くはし狭岑の嶋の　人丸

同　反哥
妻もあらはつみてたけまし佐美の山野のうへのうはき過にけりや

幸橋　備前　又伊勢　八雲

旅中　名寄
なのりきくみしゑはまちゆるきもさちの橋をわたらん　定家

薩摩迫門　薩摩

万三
隼人のさつまのせとを雲ゐなす遠くも我はけふみつるかも　長田王

同
隼人のせとのいはほも鮎はしる吉野の滝になほしかすけり　大納言旅人

家
はつまきこせとのいはほのかきねはあるさきものはいつかあるさて

沙額田野　未勘（大和平群郡　額田ぬかた）

一万十
さぬかたのゝへの秋萩時あれは今さかりなり折てかさゝむ

左奴山　同（依東歌）

同十四
さぬ山にうつやをのゝとのとをけれとねもとかこらかおもにみえつる

左京菅原園　同

同
はふつれ見るま宮の紀思ひしきりにしらすまゝのめとし

秋楽良小野　同（大和歟）

同三
いゑなるあめのさゝらの小野のなゝふすけ

同十六
天なるやさゝらの小野にちかやかりかやかりはかに鶉をたつも　丹生歟

佐那賀山　同

夫木
名にしおはゝいさこゝにあるゝ見ゆるさなか山よりあかす有けり　光俊
（名もしれぬ名所なとあるへし）

桜麻野　同

同廿三（思ひのはてしの鏡に名をかくしぬる）
はく麻のみやへのまかれとつまにくらしをしてまつのまくみへぬ

佐気路　（古今絶下　仁徳天皇御製歌）（待合のこゝろ待の不知歟）

表

稲荷森　山城

玉葉集
蓮葉のにこりにしまぬ心もてたれかはしらぬ人のまことを
（こゝろやんにえうらゝしくりや夜のやんしまいてはいてあふいまてあるや）（あはれしるのうらいまきれうしくし）
（こゝろ千にたのしひるまの竹の枝（枝カ）のたゝくひとゝとおくやて様）（迎佛　みてうるふしくて）

同
ゑひやまのしは栄あるみよ竹のたかく（たり）ほしきしるる折のはなみ
（とめしえり）
末の世は千とせもちよのまよひも仏のしるしはありなし
（あなしあつりめ目あまくしはあれぬへし　釈迦佛　まいよのとし）（あそまへんしいつるとしくり）

同
ゆうかれきまつのかりつまはいこゑのさしはいくはかるらん

瓶河　同

夫木
異かたに人のこゝろをとまり川けふはかはれる時をこそまて　為家

浄御原　河　大和　十市郡

万二
飛鳥の清みはらのみやにかみなからふとしきまして

同三
妹も我もきよみの川の岸の妹かくゆへき心はもたし

城上宮　同

万二
きのへの宮をとこみやとたかくしたてゝ

腹橋里　同

同六
かくしつゝとしのへなからみかの原まつとしふれは人のかれ　笠金

同十二
こひつゝも腹橋の山に鳴鳥の時はかならすありといふなり

夫木
鳴ほとゝきすことゝはぬの山の中をはなれてかけはなれぬ人の里にこゑを松の緒にかけし　俊頼

清隅池　同　仙覚抄

万十三
我こゝろ清すみの池のいけの底我はわすれしあふまてに

堀後
ふるさとはあれにけらしなあすか川のせきとめし清隅の池　為仲

岸野　摂津　住吉郡

万十六
住の江の岸野の榛ににほふれとにほはぬ我やにほひてをらん

夫木
分きつゝはみきそやるすみのえの岸のゝ萩をたちかへり見む

岸浦

万七
いとまあらはひろひにゆかむ住の江の岸によるてふこひわすれかひ

同十一
住の江の岸のうらわにしくなみのしく〳〵妹をみむよしもかな

菊河　遠江

十六夜記
わたらんとおもひやかけし東路にありとはかりはきく川の水　安嘉門院四条

夫木
神無月しくるゝ菊川の里ならはあれぬる秋のそれかとそ見る　為家

同
波まくらうつしてさゆる菊川の名のみちよをもかけて思ひけり　為相

伎倍林　同　在玉郡

万十四
あらたまのきへのはやしになをたてゝゆきかつましゝいをさきたゝね

同
きへ人のまたら衾にわたさはたいりなましもの妹かをとこに

伎波都久岡　常陸　（万未勘之由　仙覚云真壁郡）

万十四
きはつくのをかのくゝみらわれつめとこにものたなふせなとつまさね

絹川　近江　八雲　（延喜兵部省式　下野国驛馬衣川）

懐中
をりふしはかきてみるへき別れにて形見とひし人のきぬかは

衣山　陸奥

玉丹集
みちのくのきぬゝ山とみえつるはたちかさねたる雲のかゝる峯

木屋　摂津

こゝはいつこそと問けれはこやとなむ申といひけれは
こやともいひけるを聞てよめる

夫木
さやうゝぬなるみのあはかりまくらこゝはいかなるねをそ有る

木ゝ村　備中

夫木
ゑこもり深きみやまの木ゝの村何となくらは今をさすらむ

紀川　紀伊

万七
人ならは母のまなこそあさもよひ紀の川つらのいもせの山

紀関

古今
あさもよひ紀の関守かたつか弓ゆるす時なくまつゑめるきみ

万四
わかせこか跡ふみもとめおひゆかは紀の関守いとゝめてむかも　笠金

城山　筑前

同五
梅の花ちらくはいつこしかすかにこのきの山に雪はふりつゝ　大伴百代

同四
今よりは城山のみちはさひしけむわかゝよはむとおもひしものを　葛井大成

吉美志岳　肥前　（仙覚抄　風土記證）

同二
霰ふるきしみかたけをさかしみと草とりかねて妹か手をとる

菊田泉　　菊乃吉
（清水湧て　泉ハたえ〳〵なり　井ハ堀たるの井）

ゆ

遊副河　　大和　吉野郡
万一　山つみのまつる御つきと春へにハ花かさしもち秋たてハ紅葉
かさせりゆふ川の神も大みけにつかへまつると
弓弦葉清井　　同
万二　いにしへにこふる鳥かもゆつる葉のみゐのうへより啼わたりゆく
同　いにしへにこふらん鳥ハほとゝきすけたしやなきしわかこふることく　額田王
夢ノ曲（ワダ）　　同
万三　わかゆきハひさにハあらし夢のわたせにハならすて渕にてあらなん　大納言旅人
同七　夢のわたことにしありけりうつゝにも見てこしものをおもひしおもへハ
同　弓削河原　　河内　（渋川郡式　弓削神社）（称徳天皇　道鏡公）
（マカナ）真鉋もて弓削の川原のむもれ木のあらハるましきことにあらなくに　作木
千五百　五月あめハ弓削の河原のうすねさへ残らて流来にけり
夫木　ちきりありてゆけのゆみはりいるまとのくるゝとみえてせよてつるれ　為家
夢野　　摂津
山家　秋萩をおれふすまくら河なれや夢野の鹿のかくや鳴らん　西行
夫木　わかやとハやとるてゆふみ玉の夢野の鹿のあなたなるへき　長明
湯田野　　伊勢　（和名度会郡湯田郷　神名湯田神社）
夫木　まくらかみゆふみとをかくひろひつゝちひろの石小清くあらくへき
夫木　あた川や湯田野をとをるれハくらく山田のそとへめなかいくかねらん　同
夢山　　甲斐

（同女）旅人のかりねの床にゆふ山をこえてやいまもわたるなるらん（よみ人しらす）

湯坂　相模

（夫木）はこねちをゆきさくとしし見はるやは湯本をすきて早川わたる（安嘉門院四条）

雷宮濱　伯耆　（夫木雷濱　伯耆抄）

（波六）澤つるやなみの雷濱はるかくに未遠たえ見えぬ越なからし風（為家）

（夫木二十　家集）由良山　丹波

ゆら山とおもひのまつに雲かけりけりとまるへしも千代とことまて（ゆら山雲と）（匡房）

遊布山　同

（名寄）萬代とちとせの山やちとせ山いはねなるゆふかけ山も枝そさかえれ（同）

久日濱　丹後

（夫木廿八）いかにふく見ゆることもれいふかや舟のとまりに大方たちゐて（祐挙）

祐挙集にこのちをかきよせてあるゝなりある

来てみれはかねて見えし下葉のゆふひのそれからの秋

雪白濱　紀伊

（六帖）たちよるゆきのまつともみえなくにしらゐのさとの人のこゝろも

（家集）浪かけきそめのちをうけて須磨やとひやうて雪白濱

夏箕河　大和

三代實録十五云貞觀十年壬十二月廿一日正六位上射目（イメ）侍（カキ）神授從五位下

（六帖）ふつりはいさはなつみなるゆふさき川の瀬をはなれても

（為忠集）かはつなくなつみの川のゆふさき川のせをかはりつる（ささなみのあさりゆふさき川とあるにて）

（夫木）春の山ゆふさき川をこえゆけはしらぬ人にもなくさみそする（家隆）

木綿傳　浦　同　夫木

（山家）はつける場風いかにしきりてゆふしてのうら（西行）

（懐中）秋の夜はたゝしもきいてあるゝ木綿傳浦

行相坂　大和

万九
いゆき会の坂のふもとに咲をゝるさくらの花をみせん子もかも

由流伎橋　名寄云式（田舎道）　**伊豫**　八雲

堀中
緑なる来ぬる道しらてゆるきの橋は秋は先のみちなり

壱伎嶋　壱伎

万十五ちやうか
ゆきの海人のほつてのうらへをかたやきて
ゆかんとするに夢のことみちのそらちにわかれする君

おなしく人のゆきのしまなる人のむすめあけさしらうけり（たらめ作　上よりつゝきとなふらし）

仲文集
みやこにて[illegible]ゆきのしまの[illegible]

（家集云中将[illegible]とわかれて[illegible]に遊りていさゝかひさけとゝけに送りて　松かあるとこそとゝらんのたいさん[illegible]）

夫木廿九
ふりはへるゆきあひの坂をこゆるまて人のこゝろのみえつくれ　社　[illegible]

行合坂　未詳

名寄
風かふく[illegible]秋の紅葉[illegible]

葛木林

（二条院永万二年八月六条院仁和元年京家歌合左大弁[illegible]右方[illegible]）

夫木廿二
行めくりまつ[illegible]鳥[illegible]なる　法性寺家　左京大夫

（二条家の旧人仲光式は左京大夫或は右京大夫[illegible]）

雲林　同

名寄
くれなゐの色やけさはそめかへん ゆきの下ゆく[illegible]　土御門院

行相橋　同

明玉
さらてたにいかにかなしき[illegible]月の[illegible]　明玉

田乃古嶋　播津

一字御抄
ゆくへ[illegible]（ゆめうちにつゝきと句のうちたるなり）
[illegible]

清か初てり所ハ四つのさね

女

婦負野（メヒノ）　越中

婦負郡万ニハ（女比和名ハねひ）

百十七
めひのゝすゝきおしなへふるゆきにやとかるけふしかなしくおもほゆ　高市黒人

同
めひ川のはやきせことにかゝりさしやそとものをはうかはたちけり　家持

目無河　未勘

（みなせ川也大和）

六帖
めなし川年ふりし山のしたゆきてかよひし人を恨さらまし

新六
これやこの色もふかれはめなし川たえすもよるへなりなむ　光俊

美

瑞井　淡路

反正天皇初生于淡路ノ宮於之有井曰瑞井汲之洗太子時多遅花落在井中因為太子ノ名也

三宋安来と安藝多武峯と談会ともかくもこれをおもふにきこえも丹治の假字みやさきハ河内国之

延文百首
三川の井みつにうつる花の色やたえぬなかれにとゝめおかなむ　貞保親王

三穂崎　出雲

天文百首　事代主神
みほか崎しつめてうかふみしほの浦よりつみを

氷飲　紀伊　牟婁郡

廣定集題みさきてゝの紀の中にこゝろの歌をかきあつめ
ぬきくれはこゝろもつきぬ法のみちにはつきのこゝろにあひはすみ
小手向の歌よみける時のことなり

万代の歌ことふきて身のなかにもいまもあはん
とし比ありける日はつるのかきけり

御舟嶋　同上

家集
山のをふくれるとさしてそ御舟嶋神のうらにもとめきさむ　廣定

延喜式大和国平群郡
御櫛神社

清少納言　池ハかつまた　いはれ
しのいけ
池ハみつなしの池こそあやしうなとてつけけるならんとゝひしかハ
五月なとすへて雨いたうふらんとする年ハこの池に水と
いふものなんなくなる又いみしくてるへき年ハ春のはし
めに水なんおほくいつるといひしをむけになく
かはきてあらハこそいてもいてめ水のある折もあるを
一すちにつけけるかなといはまほしかりし
やしろハみくしの杜

類字名所外集第七　惠行　（初有二安行一餘美之両字）

美

三室戸山　山城　宇治郡

名寄
くれはつる秋のかたみにしはしみむもみちちらすなみむろとの山　西行

耳敏川　同

六帖三
雨ふれはたえやちらまし見ゝと河おもはれてこそせきやらるれ

同一（夫木四句四家集わきてしるかしく　名寄）
みゝと川せめにかなしく木ぬきりかくちらすとおもひつゝくらん（名寄　いふことゝそれかたのもしき　名寄）

夫木
耳敏河やほとゝ川よの暮ことにあきしぬれてゆかりこそすれ　元輔

御祖神　原社

同　愛宕郡即下か茂也

五社百
たのもしいはみおやの神もてらさなんむかしの人をおもふこゝろた　俊成

同
いまもなをおもふこゝろをまもるらんみおやの神の向ふこゝろを　同

山家
月はなをこかやみよりも雲きえてみるをまつまの夜ふくる ゆく人 同

六百
今はとや忘の川のゆくゑとてたのむこゝろや秋のいのちなりけん 有家

万代
まつ人の心やかれし秋よりはまたきにくもるしみちのをのすれ 若水

道小野 大和 （撫く紀 六年春二月○詔 是名小野曰道小野ト）

南淵山 同

万七
みなふちのほそ川山にたつまゆみゆつかまくまて人にしらゆれ

同九
みけ向ふみなふち山のいはほにはふれるはたれか削のこせる 人丸

同十
まきかみゝな淵山にふるはたれか白雲のさえてのこりたるらん

始見崎（ハジメノ） 同

同八
妹かめをはつみのさきの秋萩はこの月ころはちりこすなゆめ 坂上郎女

夫木
露ふかきいそのまくらにはれし末妹かめをはつみのさきの秋のしくれ 家隆

同
浅のあはつみのさきの萩の色にうつろふ袖をほしてそしる（ヤイ） 為家

同廿一
しらつゆやはつみの崎の秋萩にうつりし先にあかぬ心は 家長

耳我山（ミヽガイ） 同

万一
みよしのゝみゝかの嶺に時しくそ雪はふりける 天武 天皇

波々曽杜 （[illegible]） 同 山城

六百
ゆふひさすくもりもはてぬはゝそはのもりのしたはに秋風そふく

同
はゝそはのもりのしつくにそむかたのこゝろとそまる袖のしつくに

同
みちのくの秋しはゝそのかけにすゝしくとこそなかれはなれやの秋

夫木 六帖 家集
ちりやふるはゝそのもりのいろにそめてしくれにそみるみちのくの秋 長能

六帖
こゝのりの秋のしくれにそむへきを何のつらさ

美他池 同

拾遺
いかにせむいはねにかゝるやまかきのかはらぬいろのたまみの池 人麿

○宮川　同相楽郡本名加茂川既見于上

三宅原　伊勢　同（城下郡三宅　美也介）

萬十三長
宇津らつれみやけの原にひたつちに足ふみぬきてなつくさし

同
ちはりけるをやまゆくみやけ路に夜半の名をとなりつゝくるも

新六
うちひさす三宅の原のかり人の秋霧つゆくしんとおもふ色にこそみむ　為家

夫木
うちやまとみやけの原のわかくさを緑もむつましく絹そらなん　顕仲

名寄
浅ちふり三宅のつゝれをさむ衣千をりつゝぬきさらにてそきれ

水屋川　大和

夫木廿六
はるか山水屋の川のなかれても和すれもやらすあさたのむ衣　衣笠

同
こゝろやハはやきみちのなかれくる時雨の水くらしふるとてなる　為家

同
おもひやる水上の川やうき事あるとり法やうたて門

御金嵩

萬十三長
みよしのゝかねのみたけ小法あるこそあらふ時まてをたにふゝむらん

万代
吉野川咲くをさかりきんくらし今のみたけハ雲をそつゝめる　道性法親王

夫木
はるのいろ錦の川とみつやハかねのみたけに雲係かゝり　家隆

同
霧こめのかねのみたけのあかつきハかねつれ世をたのむまてのを　仲正

同
まつ代ハいまふたらくもみつゆきの雪にたちをまつまて　よしみ　ふる

同
我のミところのかねハ雲にとしもふる山の谷にそしるけ　信実

続後
紅葉をやまとみやけれさくらいまねそのあたらしふかけるハ　俊成

緑児山　夫木未勘　**河内**　方輿集

夫木廿
我子にやうれしかるらむ緑子の山にいまもたけぬる　元真

三国山　**摂津**　仙覚

万七
三くに山こすゑにすまふむさゝひの鳥まつことく我まちやせむ

法蔵山　叡山南麓有高野山　法蔵社在高野村東　**山城**　加茂山　別名

夫木
名のミしてみやけの山のまつかせハふくれいほりのあはれそとる　師光

同
はふ山家しくれやとらけれ山のはハ月みかくしえしくらきまり　清輔

同
うかひするみなきの山のふもとの朱かゝりにやとる鶴のなく空に　宗尊親王

同
浅緑山名のを月影露けしやあさやかれ秋の垣　雲玉

多江　摂津

同
はゐえをかりのなむまつる水をえりねのありきみのうへさらかくれん　光明峰寺入道前摂政

同
芦かし秋くはなくしこのえにうえ露しなはれ　幸清

同歌三　宗光
こひ侘りえてまるはらしうかのの芦をとゝるうちの白浪　よみ人しらす

八九集
芦鴨のはらしはえかのありしのふくるかたまき家なかり　後京極

みかさ八
名ちたハ何そうたかしも芦の家にくまてかしこつゝのつき　為家

続葉　遠信石
かへりしくいつとまくと水のそり行てゝふきくらもん　信成

御石
こつなるのゆきのくへハゆきかれともうちかのさととさるちさてとふる　秋篠内記紀

南文　同

唐白社
今朝見れハ浪のかけるのあとつけりゆきかゝりきのえかれ　家隆

三京池　同　未

多丹集
こゝゆるこゝろ池のいけてもかけぬ寂のかみ

太不　いはえハ浅きそこえぬ何ゆゑのうち池の津まかゐやん　宗武

右一首今ハこゝろ池のひきはなれし人をおもひみるゆゑなり　名寄　宗尊集

同
あさかうハこゝろ池のゆゝかの村さとかゆもんゆ　信教

浦鵯鴻　同

民部卿信房家歌合
浅のまたえり両枝ハすりぬくゆめなりやこくくの浪

歌木
ゆふくけてみさく浪をそとゆけいるの所そりまめてあさき浪

名寄
ぬる袖のゆふくかゝる村さきとしく浪にあらそふゆ

海松布関　（信夫郡又関ハこゝろのせき）

同　八雲正石

けふこそは初しもあらぬ雲ゐゆきしやいかでかも　よみ人しらず

三瀬川　伊セ

（夫木廿七）
ちかひあるいのちふかくもみせ川のみせやんしふかきこゝろを　同

赤目瀬　同

（竹川の赤目瀬に水あみのけに参りけるやうにまうでしところいとおもしろくみえけれは　みかのりに竹川の人猿のさかれて参りけるのわかれし宮やさとてよめるとなん　おもひとりて）

（夫木）
竹川はいろも緑にまさりけり竹川のわたりさへゆく人もりつるや　長明

竹川池　同

（延喜式五斎宮寮式云竃炭竃山戸竹川池等祭五色薄絶各一丈云々）

（斎宮女御集）
こゝろあるみのたえぬ池のあやめ草竹川ありにとこそなき

（夫木三十　寛治二年斎宮西之院歌合）
みかきもりみのたえぬ池のあやめ草のこゝろの池の名をやのけ

乱橋　同

（夫木）
荒ましきあらしのさきに見えつる秋のよるの月かくもらぬかな　長明

竹原山　同

（名寄　俊成）
をちこちのみね山をたのむまへに秋はたなびけゆ　長明

三津浦　同

（いせの海の入りにけるつゆの中名にしほの辺春雪といふめる）

みるめかる竹川より舟出して波のまにまやきさらりくるしん　かれ

（いせの海ふかきかはらのかくれなん）

こゝろをて秋まちかねて浪あらくこゝの浦人　長明

（同夫木）
（ながれのはてかゝる時今よりはかたらへくるしやみんと）

あかねさすなるみのさかいや花をこの竹川の里浦　同

竹塩殿　同

（名寄　三条西実条）
（あさゆふにさすしほのみちくるかたに）

（夫木）
二見までそむきしあるこゝろの月の世にちかき松原

（右二見浦へ行人小松原の中に斎宮有跡いといにしへの旧跡也といはるゝ名をば竹塩殿といふとなんいへり）

緑呼池

春ふかくなりゆくまゝに池の玉もりてまへに　為家

同

春ふかくなりゆくまゝに池の玉もりてまへにこゝろにゆ　為家

同
ちるはなのふちをもまたて緑水の池のさゝなみ妹かゆく　小侍従

八橋　同
（名寄　ふることい）
たちかへりさくらも絶すかけもなき枝もさくらはたえさりけん　長明

嶽坂原　同
（三河にも同名とある）
あきかせのふきそふものを行へたにしらてそ鳴しかの宿の夕くれ　同
あれ人のあかんかたもまちわれ嶽坂の里わかれゆく君　俊成

三方原　遠江
ありつけはみかたかはらとかきくもりみよしのゝさとのくもはれしと

三香野橋　同
ふかりけるみかのはしのまたおもかけのまよひにけるより人のゆくへはしらす　宗尊親王

見付里　同

末木
渡りゆくひとのすかたもかすかなりふるきとあかきのつきの宿
（同巻三　渡名名浪）
あかねさすひかりのかけをむすふかはしるかすみのそらに　安嘉門院四条

美衣利里　駿河
橋のみなかのさとはちれはちるともなかをそめぬかな

三嶋　伊豆
（名寄）
いそなれしみしまのかみのめくみにはなかきよのみかけ　かかの家の　安嘉門院四条
（ふかはしのなかれをたえぬやまちより）
あかしのかはのうみの海のみなかまの伴をもしるへのゆき船

身延里　甲斐
（同末木）
あかときのゆめのみのふの里とにはまつさゝなきの聲のねふり　知行

伊浦里　相模
（末木）
あかつきのなかれのさとのいきのかはのかすみのうちに　三浦郡

御輿ケ崎　相模　同
あかつきのみこしかさきのいそなみのいそきかへりて妹かまつゆく　鎌倉郡　仲正

一万十四
鎌くらのみこしのさきのいはくえの君かくゆへきこゝろはもたし
（仙覚抄ニ相模国風土記ニ云鎌倉郡見越﨑毎有速浪崩石国人名号ニ伊曽布利ト謂ニ振石也）

堀百
かまくらやみこしか崎に雪きえてみなのせ川に水まさるらし　顕仲

名寄
東路のたひなかちと都出てみちの[illegible]年ふる　為相

鎌倉志
こゆるきのいそや明ぬらんかまくらやみなのせ川の秋[illegible]　宗尊親王

美奈能瀬川（今稲瀬川と）

同
一万十四
まかなしみさねにわれはゆくかまくらのみなのせ川に潮みつらむか

名寄（夫木廿六　鎌倉志）
あつまちやみなのせ川の川橋の[illegible]みなの浪　[illegible]

夫木
橋[illegible]やさきにみちぬらんみなのせ川の[illegible]　為相

同
さ[illegible]美奈能瀬川の夕橋に[illegible]月[illegible]　同

同
[illegible]浪の橋[illegible]せ川の秋の[illegible]　為実

鎌倉志
[illegible]浪の[illegible]鎌倉のせ川に[illegible]　法印堯恵

夫木廿四
御嶽山（相模の国なる御嶽山歟　未考何の国）　同
いつくの[illegible]山に日も[illegible]　大僧正[illegible]

水飲橋　未考　未考

名寄
さみたれは水飲のはしも[illegible]　信成

夫木
谷よりもまかて[illegible]水飲の[illegible]　よみ人不知

同廿四（永久四年十月百首[illegible]）
湯坂路　同　（[illegible]見越山）
[illegible]

同
[illegible]夜をかけて[illegible]みさとにかゝれの風は涼しかりけり　同

[illegible]
ゆかしきよ年[illegible]川[illegible]

見遣園　同　夫木

夫木廿一
ちかくしてみやりの[illegible]　[illegible]

都井（仙覚抄にて[illegible]）　[illegible]　未考

（夫木）
新井しきけにみけるにゆきしとおまつにぬりくるれ

美津江浦　陸奥

（夫木雑六）
りしかや河井まにに今ハまあはにしら月河の浦よりふりあくて

（同）
河わかれしもやとりあるも月かけとしらぬにとよむ見れ　家持

（万十八）
あさみのうきれ河代さえしなかれるまに山より今を紀さらく　（同隆）（つゆさ）

（名寄）
おなつかる木のそとなくふきくへ神もやまあぬまに山にも

（新古）
玉川の夕山風さむからしきそみえりあかんまた有ふ

（家集夫木）
陸奥山をたひり足袋やはるかなのや八重の白雲　定家

（同）
さゝなみるまにゆり杣の山の麻かねとものまにくれ　（家隆）

峯越山　同　（和名抄越前　峯越々）

（名寄）
新さて家きゝとえてきゝのまの山路をいゝつゝまされん

三方海　若狭　（三方郡）

（万七）
わかさなる三かたの海のはまきよみいゆきかへらひ見れとあかぬかも

（六帖）
こひしくハきてもみよかしわかさなるみかたの花をさくやと

（名寄）
あのつくしかりふのゝれよるのくも月かくるなる海にさやけし　（為内）（支氏）

（十二）
大きみのまかれしの名のつかし人をまけし月かくるこの夜　家隆

天徳山　能登　八雲　（夫木雑）

（夫木夫）
あまさかる越路のかたの河よりしまきかは山をおもふ月かけ　（為実）（言政）

（同）
池みつの今日わすれしやや徳の山風さむしまかゆく新しく　（家持）（紀生）

（同）
立川のいはゆのつりなきまさるまさ山より雪をかけ連る　基康

見奈疑之山　越中

（万十九）
かきわけてかけりゆきつつおのふきまかせし山を八峯まい　家持

（夫木）
おしまさるまかせし山の新霞（八峯）やゝきかくしいさうほしれ　光俊

水尾山　丹波

續日本紀第三十三云宝亀元年十二月辛未幸三山御月坐
水雄岡三代実録第四十五云丹波国水尾山

名所
おりけりみつをの山のやま風をといくるまゝにさえてすゝし

春夢抄
紅葉ちる岩のかけをおとしてきよくなるつゆのきえ山

水江　丹後

万九
みつのえのうら嶋の子か鰹つり鯛つりほこし

同一段
江遠りいかてしるらむ水の江のうら嶋か子か代あらてむ家

丹後
とこよへに雲たちわたるみつのえの浦しまのこのことそもちける

同
大和へに風ふきあけて雲はなれさかりをりともわれをわするな

同
こらにこひ朝戸をひらきわかをれはとこよの濱の波のおときこゆ

同
みつのえのうらしまのこか玉くしけあけさりせはまたもあはまし

同
とこよへに雲たちわたるたゆまくもはつかまとひしわれそかなしき

拾遺
なつのよはうら嶋のこか箱なれやはかなくあけてくやしかるらん

同
みつのえの浦嶋か子の玉くしけあけすはいまも妹にあはまし

同
そらのえのみつかたの嶋人は宮のうちけいかきてみしもなく

小大君集　武男
みつのえのはまのいつやかへるへく玉のまなつもいやしかと

三角山　周防

石見那賀郡三隅　長門大津郡三隅　美作　美濃

夫木廿　名所伊勢国歌山
紅葉ちるみすみの山をたつねきてこえくれはまりて見のこしてゆ
よき人不知

三穂崎　出雲

名所
みほのうらをまてこそめつらしみなれしちかのきはにつゆれ

御隠山　石見

夫木九　後中名
わたつみもつくしなき一よの代のみかくれ山の御あふはいつ
夜中郷
八名所未勘

三重河原　夫木廿四下
同　勅撰名所抄

伊勢三重郡　丹後丹波郡　紀伊名草郡　摂津賀茂郡　筑後山本
郡　豊後大野郡　肥後山本郡　並有三重郷

万九
あらしふくみこしの河のいその浦まてこえてなしなくかへる川かな

三尾浦　　　近江

名寄
かちまくらかりねのとこの浦風にあらしとふける袖のしつくと
（右後鳥羽院遠所より七条院御方へまいらせ給ひけるに此浦彼所にありとそ）

御山尾　　　播磨

散木
みやまおはやまよりよそにかへりてはくもあけたつこそはれまふらし　俊頼

三輪河　　　同　紀

壬二
さみたれし風もみちきりしたへさくらの川かせをそむ浪そ　家隆

夫木廿七
寒むさふるとくさの川かせ秋風に浪よりふかく衣うつなり　光俊

御舟渡　　　紀伊

夫木
そらのやに渡桿さしし御舟渡秋のゆふしくれもやみなん　為定

三くまの浦よりこゆる御舟しま秋のよはにてうちあくるなり　中務内侍

三重瀧（ミカサネノ）　　　同

山家
身につもることはのつみもあらはれて心すみぬるみかさねのたき

三橋山（ミハシ）　　　同

わけきつるやまのさくらはさきにけりわかれかたきはみはしの山や

三名部（ナベ）　　　同

万九
こなかゝるおきつ白浪のおほ磯の廣瀬をこえてとそかへりなん

明玉
浦人やゆきかふと見る紀の海のみなへの浦の磯菜つむらん　大僧正慈信

美古志石神（イハカミ）　　　同
（中之尾仲実之まゐりけるにまうてけり）

散木
雲のゐるみねのいしかみむかしよりいかてかくるうきよなりけむ　俊頼

御居浦　　　土佐

名寄
おほならはとてもかくてもせむものをおそれみのふりたき人しあれは

水城関　　　筑前
旅人

万六
ますらをとおもへる我や水くきの水城のうへに泪のこはん　大納言旅人

玉葉
くりかへしおもひしれとや水城のけふのわかれに袖のぬるゝ　長方
（右哥の右一首筑紫にまかりける時水城といふ所をすくるとてよみける長方によみかはしける）

名寄
かきくらしこゝろつくしの水城やさはるかたのなかれかへり見るらん　俊頼

夫木
石垣乃水城の関のもるかひもあらし吹なる人　家隆
（此哥は筑紫へまかりける人の承久のころ小弐府なとにて　むくひまいらせける哥なり）

同
名寄やよそ道のはてふかき沖つ舟のかよふ路　光俊

美弥良久埼　肥前　松浦郡

（蜻蛉日記云沢なくのはてなく人のもとにいひおこせたりけるに　人のもとへかよふにありけれはもろこしへいかなるかたにかとおもひしかは　さいはひなりみねのさとやみらくのうちまて侍りけるとかへし　いかゝせんにはとおもひしにはかへりてんとそ申ける）

同
有ときにまかふなみまに名残なる沖つ袖やましてみらくのしま
同
いにしへの夏のはてみらくのうれしさをきみ人とまたさて　長能

夫木
みわたせはおなしおもひの浦かけて小松かもとに波のよる見ゆ

（万葉第十六肥前国松浦縣美弥良久埼発船直射対馬渡海　続日本後紀第六云承和四年秋七月癸未太宰府馳伝言唐三ヶ船共揺ニ松浦郡旻楽埼発行云々）

蓑島　備後

宝之集
村雨のぬれてそきけ今の宿やまよふに難波の浦のみのしまやかりそめ　範兼（万五之部珂郡　伴名ハ蓑島）
淀のわたり夕くれのうらしめる渡し舟さして行らん　桂垣妃

淀浦潟　未詳

万十四
芝付のみうらさきなる根つこ草あひみすあらはあれこひめやも　作者未詳

蒿里　山城　名寄

同
協石
五月雨のしらぬ滝の里まかりの田のさなへいそきとらまし　師時

美気崎　同

夫木
老の浪よるとはいつゝあらしなれはこゝろのとまるやさしさ　定家
（つらくしてなかなかしるしよさのまつらのうらにたつもしほ）

同廿六
符牧浦　　　　同
あまくたりかのりすもすゝかゝかそれ浦のおすまのあく縄　衣笠

文濱　　　　同
夫木
たまくらわれさまおもふしら露のこのよは結ふ袋とてしやらや
夫木廿五　拾遺
しや濱のいさゝのこなれ永き世の手をくゝかさねまたくなきし　之備

伊将蔵　　　　同
夫木
なにたゝのまかりける藏のゆふしやとりとりとうけてふかき何事　光俊

水茎　　　　同
夫木
きしかけをともし（こゝろありて山のかたにたつとふなる）かれ水茎内のわかれのかねかもやらぬる　信実

水久君野　　　　同
一万十四
しくしけりかりの木のねのはなつゝみしらくとちやみいきてあなる

文瀬川　　　　同

同
閑りたる風の中川のかくれぬのこひてぬれんまさしさとも

美努浦　　　　同
畑中
松かねのよそにはかりかれわりゆくゝ経むのこゝろかはりん

緑沼
夫木廿四　此哥六年定文家歌合緑沼題出詞
みとりかにもかゝる宿のかりなれかわりてゆく緑沼のしるしとも波をよせさり　よみ人しらす

同
ゆりもしらゝ緑沼のとすゝいゝさ浦のな

之

榛原　　　　山城　忠岑郎

拾遺
しられつ月いかにふくらむ榛原のあさかみえゆし　範仲
夫木集
いさこ山まさ山まさみの原わりかれかけつむ人の行すゑの原し
夫木
あとみ山まもるかやしさこえゆくに榛の原のゝまさとまわりかし　匡房

千五百
かよひこし人の跡もたえぬらしこゝろにつもる白雪　越前

城南寺　同（せいなんし）

月清　御百首よませ給ける　[illegible]
民の戸も秋のねさめやわかるらし城の南の入相のかね　後京極

志津原　同（[illegible]）

山家
山川のたえぬにこゆるわかれみち志津原のさと　西行

新六
宿しめて住む山川の志津原や静なるくらになれもする哉　経實

夫木
あまくたるぬりかはのゝよそにたえぬ志津原のやなきまて　肥後

栂尾瀧　同

續後撰
ときはなるみとせの山のもみちの葉ちりもこそすれ栂尾のもみちし

磯城嶋　文　大和　八雲

續中
おほかたはしきしまのやにあれとも山となるへし

月清
あかねさす志きしまのやまとしまねもなひくかとみゆるや庭の　後京極

鳥羽　同　[illegible]

万二
とこしへにわか日のはらにみ萬代にありけれとも鳥羽のまへとも

同
鳥羽のうみやこえつゝ池あるゝみれかなる鳥羽にお(?)ゝ羽をのみそとて

同
鳥羽の夕日うけて池のかみまちかくもひくなき池にあそひて　人丸

同
つまこひに鳥羽のよしのはまちまちて鳥羽のみよくはなをつまをと

同
秋見つる鳥羽のこなたにかへれる人をまちかねつよし隣也

萩原　同　夫木廿一

一万六
あけぼのにみゆるはらのはなはまた千代まつのかけにのこれる　紀有人

夫木廿八
色かへぬ松のしたつは萩原の秋をもしらぬいくよなるらん　藤原為倫朝臣

鳥上　大和　大和國　同所々　同　和歌類

一万十九
鳥上の山かけにある松かけにおもひこそすれ　家持

同
志賀山のそとのうちにもうつゝにもまつらんとおもへはくるしき　藤原吉備

同六
天のはらけふしかぬなる[illegible]のこゝろも秋はぎにほふ

同九
佐保山と[illegible]かる[illegible]山の[illegible]

同十
あけぬれと[illegible]小夜[illegible]秋[illegible]

司馬野　　同　　[illegible]歌

万十
くさまくら[illegible]

清水池　　河内

天平廿六
濁りなき[illegible]の池の水[illegible]　[illegible]

[illegible]下　　摂津　　[illegible]歌

六帖夫木集　[illegible]
鳴[illegible]

菅能山　　同　　八雲

万十二
玉くしげ[illegible]

白野濱　　同　　名寄

白妙[illegible]
月[illegible]くらの杜にくるかけて[illegible]濱いづくなるらん

下樋山　　同　　名寄

万九
下樋山したゆく水のかみにいでずわがおもふこゝろやすきそらかも

四八津　　同　　仙覚抄　[illegible]歌

万十六
ちぬ[illegible]くるしほの[illegible]ぬれきぬ[illegible]

白洲崎　　同　　[illegible]歌

名寄
あかね[illegible]しらすさき[illegible]

志まく山　　伊勢　　[illegible]

同
湊の川[illegible]

夫木集
[illegible]

夫木集　[illegible]

白良濱　　同

同八
一志ほさけなくかぬなに濱なる須磨のうらうらも秋まとひにまよふ

同九
須磨山と名にたてる須磨の山の嵐のよはさむし

同十
あきふかみ[illegible]なくなるに匂ひくる須磨のうらには秋となりけり

司馬野　同　為家卿

万十
くれなゐの[illegible]色もかはらてあはれにそみる

清水池　河内

大和物語
濁りなき水の池の心にもすめる月かけかはらさりけり　其他

須下　摂津　須下郎

新古今集　松葉
唄ひのなけきもしらぬ[illegible]の山のたよりもよしなきかな

菅盤山　同　八雲

万十二
玉の川よ須磨の山の夕されはひとりこえぬる山路くるしも

白野濱　同　名寄

名寄
月夜よいてくるの杜にもかかりてある須の濱いかならん

下樋山　同　名寄

万九
下樋山したゆく水のあらはれてなにそふかくもやまさるらん

四八津　同　仙覚抄　能因歌

万十六
ちぬのうみのしほひのかたのあはれよりもなつかしきつれなき人の恋しさ

白洲濱　同　為家卿

名寄
なにはかたしほひにあさるあしたつの須磨の小貝ひろふまくり

志ま久山　伊勢　めか

同
須の川よそにもなかれみなかみのしらすの山のもと
万葉集　志ふくやまのゆくかくれ
川くたる山下とよみ鳴しかの妻こひかねてなきぬるかな
万葉集　作者人麿と云々　御集にはかくありとそ
云々

白良濱　同

名寄 新千載 恩人

はるくと志らゝの濱の白ひハなをさくふかく雲をそ見る

山家

浪よする志らゝの濱の烏貝ひろひやすくもおもほゆるかな

同

志ほわたる志らゝの濱の松のねをとゝくてらす月の白波

夫木

おきつるゝ松ミよ志らゝのいさことい志らゝのよしもなくそふる覧 能宣

新千載 家隆

月けれ志らゝの濱の志ゝ貝ハ波もひろひ小ゝえわするな

口泥崎　同

一百六

おくれつゝ人とゝめぬ志ほの浦ゆふなミたてゝすまむとそふく

名寄

み渡せハ志らゝとゝもに志ほの浦ゆふくれて濱さそふらん

志か濱　同 名寄

うちわたすひとしきかたに志かのうらの浦をゆきてうちよせてゆく（志か濱）

夫木廿五

二見とはもちの濱路やいさなとり塩あひの浦にいつれかとまる 長明

搗桐濱　同

同

月かゝるひら川山の雲まよりしほのみちくる塩あひのこ舟 同

篠間　同

夫木

あふの濱小志ほのうらにふく風のそのまゝのまろ小のよや 信実

續後

秋かせにあれまさりゆく夜をさむみ雲のかけより冬そ来ぬらん 紀盛

篠束驛　參河　（和名 寶飯郡 篠束之乃都加）

篠束驛 駿河之當 波條以為之

一百廿

ゆくすゑのいくよしまの浦にかけてあふことのまたくうらむ

名寄

東路のこゝろいそくれ紅葉たつ舞ゆふ海辺のなみの浦 家隆

同 篠中

けふ人のまつらしをてゆきてかるゝかもの浦をたえしとそふ

夫木

篠束とよこの磯にあまの浦もいつかなけれはゆかれけむ 家長

月小磯部 白羽 高松萬葉 又 和倫 参引

清水濱　同 名寄

名寄 たるの濱くらふ瀬をとめて

あふさきこゝろのかしや一すちめてよるなきよハ日いまなかし 長明

名寄　新古今
はるくとさゝれの濱の白ゆふハ高まくふかき雪そふりける

山家
清見かゝるさゝれの濱の鳥さいさらしやまくかるわゆるれ

同
さ夜ふけてさゝらの濱の松の葉をとほしてうつる月の白波

夫木
あらひける松かみえわいさなとりちらすみなといかにしるらん　能宣

新古今家隆
月けれハさゝれのなみにさす貝ハ波のしたにもかくれやハする

日泥崎　同

一百六
おくれすも人とまるめらしさしの濱ゆふくれてすさむ

名寄
あらはさをしさとうさとの濱ゆふしてひきまき

志加濱　同　名寄

新古今家人
うちかへしまてにしやけぬかくれぬしほさしてくれ　（志加濱）

夫木廿五
二見ちらほらの濱縁やいさあかん培あひいられつゝむくれそ　長明

培桐濱　同

同
月かあかひる川山に雪ふりてゆかゝたね培あひの里　同

篠間　同

新木
あさの濱ふちをの湊の川ゝふ風わたるみのまつかれや　後撰

續後
秋のりまにあかれさりの秋かれ袖をそかゝぬと　紀貫

篠束驛　参河　（和名　寶飯郡　篠束之乃豆加）

一百廿
さくらかさきやらのいそしきあの浦しけしそあかいさかさかくむ

名寄
東路のしゝわのいそれ緒を枕さくらいとて海辺浪かれ　家隆

同　懐中
いふ人のまつならぬさへしさへられさへのいさへさふ

夫木
浮かとさかきの孤しさ浪もいかれうかれけむ　家長

日本紀　磯部　白羽　至石岩枕　又
（同万葉　歌引）

清水濱　同　名寄

名寄
あさふきさくらの濱ふふかとさくらて八ちかれてさらしまさハ日いさあかし　長明

師歯迫山　駿河　新撰名所ニ在

万十一
荒熊のすむといふ山のしはせ山せめてとふともなか名はいはし

名寄
あらくまのいかくまもりのうはく熊のしはせの山をいくかこゆらん

新六
あかりゆくしはせの山のくまつゝらくるよそなるき秋の月の色　衣笠

夫木
はしる熊のあまたすむてふしはせ山音にいつれかたけしかるらん　後京極

一本風俗哥
之多乃宇良乎安佐古久乎不祢引佐志与勢呂和礼佐戸乃利天奈之太（一説世）之太乃宇良美乎ゝゝゝ也

志太浦　同

しの浦をわたる舟とよりあかりゆくらめなをよてはこめ
ゑくめれにあさ舟のめなさに花をさゝるなむひのさむさ　よみ人不知

志太浮嶋　家隆

常陸國風土記信太郡乗濵里東有浮嶋村（長二千歩廣四百歩）四面絶海山野交錯戸一十五烟里七八町餘所居百姓火塩為業而在九社言行謹諱（以下畧之）

ハ衣りうふしほの浮ま　新叙
月りぬゆしらぬうき雲　保季
しほのかしらをしめ浮しつきのかぬる袖の浪かれ　隆信

筆縄　同　夫木

夫木
けふもまたしかすかにわたりて見ゆる人のまつ　定家
（此哥ハ唐衣ふもとの今はしめ鳴ゆくかたにつけをとるものゝ名ハ花のなきよ）

篠村　近江

同
（篠原近江をもとなくと）
しの村やみちのみやけと見えるもハ一しのわけり雪のつもれる　為家

白雲山　同　家集

家集
世中りさとて白雲のふかけれはかゝやつきあらくあらん

夫木
ほとゝぬの白雲山のあかりくふるとしもへとゆかつまうり　匡房

同
八重たてる白雲山のさくら花ちるとも風のゆるしはしめや　同

同
やすらふる白雲山のはつしくれとりやよそしあらしあらん　為信

同
まよひくるなかれしまての山さくら散るとそよそいくよかはらぬ　資宣

新羅家　同

師歯迫山　駿河　新撰名所に在

万十一
荒熊のすむといふ山のしはせ山せめてとふとも名はいはし

名寄
あらくまのすむといふなるしはせ山しはせの山といくつこゆらむ

新六
しはりゆくしはせの山のくもつゝくあさなきわたる月のかけ　衣笠

夫木
あら熊のすまふしはせの山ふかみいかにすみけむ人しかるらん　後光

志太浦　同

万十四
志太の浦を朝こく舟はよしなしにこくらめかもよよしこさるらめ

夫木
しつかなるみなとの舟のあさなきに浦をさしてそおひのほるらむ　よみ人不知

志太浮嶋　同夫木

同十三
行かへるなかれもしらすしたのうみのうきしまかけてしつの浦ま　私撰

千載
うら風のしたのうきしま霧はれて月すみのほるくもゐなりけり　保季

六百
さはへのこしかけうきしまうきしつゝなかれてやすむ袖のなみかな　隆信

紫縄　同　夫木

いかにしてしはのかりねにやとりせむなかれてもなほ霧ふかきころ　光俊
（しはのかりねハ庵の事をいへり紫のかりねといふ名所ハうたかたなり何も見えねハいふ）

篠村　近江

同
（篠のむらたちのゆふくれに）
しのむらやみそかのゆふけと見えしよりひとのわかれゆきのつもれる　為相

白雲山　同　夫木

新古集
世中はをしてもしらぬ白雲のかゝるやつきのあはれなるらん　匡房

夫木
はるかなる白雲山のあけほのをいつのまにかとたのむなるらん

同
かすみたる白雲山の花さかりのちの風に雨はふらしや　同

同四
さくらさく白雲山の花さかりたちかくすらんよしのなるらん　顕輔

同
さえくりたなひく雲の山かすみいくよかさねむ　資宣

新居敷　同

夫木
くれなゐのみのえはらや名もしるくや粉のさかりの[illegible]　寂然法師

新古今
さゝなみや三井のふる寺やまさとにいまもかはらぬ神のこゝろを　小督 為郎

四宮　同

家集
今よりはかゝるみなとの山風やまきのなかにかしこきは　小町
（四のミやのうちにて風ふくに）

夫木
明かゝる志のミや川のたえまゆく人の柳をそへてゆく　山階
（今案名所のあたり野の辺と申すことなれはそれにつけて上のふるし　とかくいつかしいさかい）

新宮杜　在江口玄村、稲羽明神之旅所也社名
見三千佛子坐玄紀二

信明集
ことわりてかみへくかしく名前に神よりふるいなかきらう

植田川　文永東郎　信濃　名所要補か

名寄
岩なみを志ふ田乃川ゆめしきものゆくふかくさる風　家隆

清水里　同

堀河
あかつきのさとの子の里[illegible]かはさへかみなにつけてかれ　為家

同
名もたれは休屋をたつくすまいしつゆ里をまよひてたえなき
名寄
まさるかぬ人をふる風はえし新名の里に神をぬまさる

信濃谷　同　新古 家隆

一万十四
志あのたいへいよりみちかゝ宮はつるむかくるおもひも

標葉堺　陸奥
堀河
東路や志ちのたえ名り宮あり雲井にかゝるつきをたち奉ふ　郁芳

叔羅河　越前
一万十九
志らき川ゆかつきのわたる不衛みいはてさしかゝし　家持

同
志らき河衛をそのかみ部をへかりくゆるとゝかみさかりかり　同

新名所
ひのかたる輪をめをしりつ志ら川やなれ瀬やなる曲乃けり　郁芳

澀谷　越中

一万十六
志ふ谷の二上山りかゝうてきへむそいふこし

同十七

なかなかにいさ我ゆかん志賀谷のふるき跡あるよきる道たえり　家隆

同

さえのほる志賀の山はしふ谷に清きなかれりあり　同

同

しふ

渋谷をわけてかへる白雲の花とみえしは小はしくへるかな　同

同

志か谷のありけんしふ谷のきよきなかれり　同

同

志賀谷のあふさの浦よ神なみよせくる玉は　同

同十九

しふ谷をさしてわけゆく道よ月影ありけんなきしらよ　同

未木

ゆきよし渋谷のたにと分きてゆるさぬ紅やぬれけん　よみ人しらず

信濃渡　同

一万丁七

越のゝしなのの渡とわかるゝし春日もぬれてやの　家持

現六

いかにしてふけゆくぬ越の渡は秋のしら風

未木

こえ行や信濃の渡は秋風に衣のたもとなくるなり　為家

重浪ノ関　權大名寄

拾石

逢風りてこえふしまつくしあなたこそ波の関やなかはきぬる

埴金山　美作　八雲

拾八

名寄

いはひける埴金山のさかへつゝ君か代まてにさかえつゝなり　俊頼

千載

君か代を祝やそらんまろまりりけぬ山の名もわかの君　讃岐

眉山　丹波　茶女

夫木抄　永保四年大掌風　丹波国

ちよのかげ山の白雲のそれ萬代ふるきあしたそれ　匡房

荒躑山　信濃　よみ不

新拾

志るしの山おろしの風のあさまにちりけりみえぬなみこそとまる

夫木

躑躅の山おろしも秋をしけりて紫のまかきにぬるゝ

新後

志るしの山風にいろもしぐれつゝあかぬ布なる　俊頼

埴金浦　里　未木夫五承元　紀伊

夫木

あまのつくや志らやのたへと吹まくためあやぬゆふかぜ　紀州　紀之

（名寄）こゝろむしやわか里に崎あまもまたしらさきのやまなし　（宗尊親王）

白崎　同

（万九）志らさきハさき〱ありまて大ふねに真梶しゝぬきまたかへりみん

白神崎　同

（同）ゆふ崎もしらかみしかれしろかみのいはねのとかへてゆくなむ

白良浜　同

（續古今）まつの木にしらゝのはまのよるなみのきえていかにかあはれぞ

のちにめてゝ（二段）風しもふけれはおとこしるへきれなき

まつてみれはもくそしらゝ

（宗祇ワカ紀）しらゝのはまにすむかりのあはれにもえなき

（夫木）（寛治三四条宮家歌合）かりそめにしらゝのはまのまさこにそ秋の月　（よみ人しらす）

（夫木集）まつ人のまつのもとかけしらゝのはまにこそいかにせむと　（慈円）

（拾遺）浦にしらゝのはまのうへのゝかせにこそ月はなれ　（仲実）

（同続）（石木抄云）みつかねの玉をゝもしらゝのはまをかくしきて　同

（夫木抄云）みのをにもしらゝのはまにかくれつゝせとそこにきて　（よみ人しらす）

同　あれはてしみちもしらゝにおもひつゝ秋のよの月　長明

白鳥関　同

（夫木）おもふとはちかきかたにかくれつゝかのへのせき　同

志古山　同

（と本）空ゆくやまのもえわかてそこにむかしのみかり

信浦　（常陸）八雲云

（万四）大和路はしのゝしのふかきにゆかしなくしもへ

（名寄万什）下つふさの山わかしのふにくもにかくれたれし　（よみ人しらす）

信夫　陸奥

（新六）[illegible]鴫[illegible]

清見関　（駿河）

（夫木卅四）[illegible]衣[illegible]

（海道）宿[illegible]清見[illegible]（匡房）

篠ノ森　大隅（夫木）

（夫木）[illegible]山[illegible]（為家）

（同第五帖朗詠）[illegible]山[illegible]妹[illegible]

（名寄）[illegible]

塩津浦　未勘

（山家）[illegible]綱[illegible]塩津の[illegible]

志都ノ石屋　同

（万三）大なむち すくな彦名の いましけむ しつの岩屋は 幾世へぬらん（生石村主真人）

信濃野　信濃

（小大君集）[illegible]

標野　同

（万十）[illegible]秋[illegible]

鴫門　同

（同三）[illegible]秋[illegible]

潮潟　同

（夫木）[illegible]の浦[illegible]塩[illegible]（後拾遺同不作）

塩浦　同

（自集）塩の[illegible]

鴫根浦　同

（夫木十五）[illegible]塩の[illegible]（俊成）

後撰
秋[illegible]　忠岑

白石　同

新古
[illegible]と　俊頼

白粉浜　未詳

夫木（壬生忠見 白粉浜に家[illegible]）
月[illegible]の浜[illegible]　よみ人しらず

白浜

雲玉集
[illegible]白[illegible]の浜[illegible]

一万十一
[illegible]の白浜[illegible]

白姫沖（シリツメノ）

玉葉集
[illegible]人[illegible]や

紫尾山　文永廿八　同

新六
[illegible]月の[illegible]　衣笠

近衛兵部卿式部安房
国擢馬伯濱川上
各[illegible]

恵

恵我の市　河内（館香日本紀衛我同志紀郡）

後中
[illegible]て[illegible]

恵美行見　駿河

夫木
[illegible]　俊頼

頴娃郡　薩摩

同
[illegible]

比

一言山　山城（[illegible]）

一万七
[illegible]月[illegible]　家持

同六
[illegible]　河内

拾遺
秋[illegible]　為尹

白石　同

新千
[illegible]と　続後

白粉濱　未詳

千五百番歌合
月かけは[illegible]の濱[illegible]　よし人

白濱

雲葉集
[illegible]白妙の濱[illegible]

百十一
たちかへる白濱浪の[illegible]

白幡社

玉葉集
かけまくも人[illegible]

紫尾山　夫木廿八

同

新六
[illegible]月の影　衣笠

恵

恵尓賀乃市　河内　餌香日本紀衛
我同志紀郡

続後
花さくら[illegible]

恵美行恩　駿河

[illegible]

頴娃郡　薩摩

同
[illegible]

比

一言山　山城　未詳

[illegible]

壬二
野のあれかくあれて一むら山まかきにふくか風のさむけれ　家隆

同　日野

夫木廿九
さとふかくひのゝ杉むらつもる雪（ひのくまけしいふもとたえて）小塩の松もふゆやまさるらん　[illegible]

山家
伏見過ぬをかのやになをとまらし日野まて行て駒こゝろみん　西行

同　日蔭山

拾遺
日かけ山おふる葵のうらわかみいかなる神のしるしなるらん　師輔

新六
ちはやふる日かけの山とあらはれて神代のあとはいまもかはらぬ　中原師光

後鳥羽院
日蔭山さしもたかくはみえねとも雲ゐにちかきしるしなるらん

夫木
ひさかたの月のかつらもいろそひて紅葉ふきしく秋の山かせ

東市　大和　添上郡

万三
東の市の植木のこたるまてあはて久しみうへ恋ひにけり　門部王

引田　同　城上郡

古事記
引田のわかくるすはらわかくへにゐねてましもの老にけるかも　雄略天皇

引手山　同　添上郡

万二
ふすまちを引手の山に妹をおきて山ちをゆけはいけりともなし　人丸

明玉
あけぬるかふるさとの引手の山の峰のみちは　家隆

夫木
ひとつまに引手の山のかりそめにあやなく人を恋わたるらん　後九条内大臣

檜隈　同　同

万十二
さゝのくまへゆるもみちのいちしろく檜隈河にたちよらましを

一言主神　同　葛上郡

夫木廿六
逢ことをまちやへぬらん一言もありけりとてぬしかねたるけむ　家隆

同
つれなさを一言主にいのりてもいはけなくつらくなるらん　寂蓮

同
法のためいくへつもりて久米川にかけてもしらぬあまのうき橋　有経

平松　和泉

夫木卅二　正治二年百首
雨ふれはまつ雲かゝるきたの山のなかはも見えすかすみそ　後鳥羽院
万葉集　ひら松のみとりをとをくて
しら雲はなけれはみねにかゝる雲のはれやらぬそら

比面川山　伊勢

夫木
旅人のみるひゝ川山の雲間よりのこらぬ猿の声　長明

日中　同

同
秋きぬといまそなきけりひくらしの日中の(?)そら　同

日向山　相模

松葉集
はるゝひなた山と秋もなかは見えわたりさらにあらぬ

常陸海　常陸

源氏宇治
草わけてひたちの海をいくそたひいそなみよするなかのうら浪

夫木
秋かせのふきくる宵はひたち海の浦のみるめもなかりけり　秀政

同
浪よするかすみのうちに常陸海のはるかに見ゆる雲のいさり火　光明

百十二
白まゆみひたの細えのすかとりの妹にこふれやいをねかねつる

斐太細江

屏風浦　土佐
なをたてる屏風のうらはあまさかるあまの小舟のかよひちとこそ　仲正

稲村浦　同

新六
いかなれはいなむらのうらのうきなみのよるとはなしにたつ人もなし　光俊

夫木
足柄山

足柄山あしたねさかへし雲のうちにかすみの雲はちるらむ　経信

同
よそにみし足柄の山のゆふくれはかすみにまかふ花のしらくも　無名

比力林川　群馬郡　上野　群馬々　利根

懐中
秋よりもなつくるまゝのはこくらのひゝわ何とやしらすもあらなん

平鹿　出羽　平鹿郡

姓氏録巨勢楲田朝臣雄柄宿祢四世孫稲茂臣之後
世男荒人天豊財重日足姫天皇御世遣佃
葛城長田其地野上溉水難至荒人能解機術
始造長楲川水灌田天皇大悦賜楲田臣姓也

夫木　いさりするひゝみのうらに見えてけりおきつしほかせにかもめむらむらし

日美江　越中

万十七　つなしとるひみのえすきてたこのしまとひたもとほるあしたつのともし

千谷　丹後

何色めりひく乃谷をつゝきゝのみなくさもなひ結ひあかなかり

簸河　出雲

つねよりも八雲たつ鳴神やひの川上のゆふたちの空

日笠浦　播磨　明石郡

万七　いなみのはゆきすきぬらしあまつたふひかさのうらに浪たてりみゆ

播石　たひ人は時雨にぬるゝ日かさ行てさしてそ行へうれしかれ

夫木　くもりなくたゝるかつらし久堅の日かさのうらに浪のよるゆ

響なた　播磨　本名比治奇（ヒヂキナダ）なた

万十七　こゝろのみいそくかひなきひゝきのなたをこそふくるまてなかむらん

後拾遺　うきことはしるくもつけしきこそあれひゝきのなたもさわくかせかな

後集　みなしくもひゝきのなたにひかれつゝ忠しらこそわたらまし（夫木ナシ）

忠見集　舟出して（桜女）月かうかふぬ播磨なるひゝきのなたにまよひこしかな

同　さかしらにひゝきのなたに立出るあまのともしもまつかせ布たる　忠見

夫木　風ふけはやさしく響のなたの舟よりいまそわけしほとくにこそや　讃岐

同之　よしくもかゝれひゝきのなたのあま人いさりにてなくぬれ　よみ人しれ

同　うねりさえひゝきのなた行ふね乃あとをみんとこそおもへつるまて　定家

万代　こゝろよ響のなたの雨路にいつまてふねもとらてわたらん　長房

夫木　風とつゝくひゝきのなたに通りし岸のまつにかれやちとりなく　経家

新撰　はまちとりこゝろへつくさなのなかれのよそのなかへ行てゆかん

比く乃平　備後

讃岐へまかりてみのつと申つにつきて月あかくてひゝのてもかよはぬほとに
とほくみえわたりけるに水鳥のひゝの手につきてとひわたりけるを

山家
しき渡す月のこほりをうたかひてひゝのてまはるあちのむら鳥

比佐志山　伊予

夫木
長閑なる春のひさしの山あらしにいかてかしきの梅のさそはる　隆祐

引島　長門　仲哀紀
穴門ノ引島

堀百
ひく網のからきのうけなは浪まよりひきさしかへてゆふくれかく　俊頼

夫木
うつろはぬ引しまの松はまきたらむかしふかきはいかにとはまし　同

氷室池　周防

夫木廿三　按幸周防にはとかる所有未考合
氷ゐしひむろの池に冬なから風はまたやぬるまん　よみ人不知

人丸山　大和　古今序

万七
えんねはあぬ人丸山のおのれとそあめのしたなる山となりぬる

同
おもはぬ人にしられぬ山なれは秋つまつなく暮れてゆくらん

屏風浦　紀伊

山家
屏風にや心をたてて思ひけん行者はかへり児はとまりぬ　西行
（行者かへり児のとまりにつゝきたるすくの山伏は屏風の岩と申所を　たひらかにとをらむとて行者児のとまりにとひてたしかもかし）

檜原山路　同

同
名をきけはひはらの山路を越ゆけはまたやみゆる山はしるへく　同

引津　伊勢

万七
あつさゆみ引津のへなるなのりそのはなつむまてにあはさらめやもなのりそのはな

同十
梓弓引津のへなるなのりそのはなさくまてにあはぬきみかも

一瀬川　夫木未勘　筑後　八雲

建六　夫木十三
夜をさむみ秋の夜なれは一瀬川こほりもやらぬ月のかけ　衣笠

拾玉
一瀬川なかれてきよきゆくみつのたえすもそれと人はみえなん　慈鎮

夫木廿四
たのもしな風もなきまにわたりつる一瀬川まてさらにひとりなかるる　為家

比多我多破　未勘

（一万十七）[illegible]

火焼島　同

（拾遺集）[illegible]

人見島　（後京極摂政家百首）　同　（清少納言家集）

（[illegible]）[illegible]

日高浦　未勘

（[illegible]　頼水梅）夕なぎに [illegible]　（経朝）

一　廣橋　同

[illegible]

日高黄菅島

（万十七）[illegible]

（[illegible]）

彦山　思子山或云彦山也

（[illegible]）[illegible]

も

廣橋　山城

（同　門）[illegible]

求塚　摂津

（[illegible]）[illegible]

求馬　尾張

（[illegible]）[illegible]　（信実）

諸礒　相模

（万葉十三）[illegible]　（よみ人不知）

同後
名にしおはゝいさやふかき東路にありふるなかれしかなき　忠房

夫木廿二　（名寄　備中）
きゝわたるなかれもしらす名寄にもころもうちきぬあさのころもの秋風　よみ人不知

名寄
涙のみさむきあれゆきましかはさのなかれたちそむすふ秋風　忠明

裳羽服津　常陸

万九　長哥
わしのすむ筑波の山のもはきつのそのつのうへにいさなひて　高橋虫丸

物闇山　近江

続古集
まとゐするのきは山の谷ふかみ涌もゆくにゆきもはなかす　（備中　名寄）（よみ人不知）

緒文　同

夫木
かはへなる谷のあやにをりかけてつらしとふくもそこにいつれ　後京

同上
あさみとりいさしてそれをまさりけるにいのちのあやにつけむ　信和

唐錦　出羽　（和名類聚云　大唐錦）

八九集
はつもみちのふかきつゆにてもあさひやちかきにいかにいふらん

あさのさく浪

緒絶川　陸奥

夫木廿四
なかなかにあさのさく浪たえはつるものからひとのをたえやそむ

夫木廿四
ころもしもあさの川のさかひなる瀬にもあらはたえかへりなん　よみ人不知

甕泊　備中　夫木

夫木廿三
むかしよりあふ人もなくたえはてしいけにはをしかかけるまかせん　宗恵

同六十五　万代
このまりのこゝろのあやにまたふかきいけのみなそこいかにかるらむ
（此歌建久九年大嘗会主基方備中国風）

両瀬川　**赤郡**

同廿四
名をのこすことのあまたをもかく川にあらふなみのみきよきよし　家隆

緒桑山　同　（かみひくち　山城名所記）

家隆集
佐保山にみちのおくなるさくら山あきもかならすあけにけり

夫木
あふさかのゆきのやまかはもゆるたえかれてもゆるのはかなきものゆゑ　光俊

（続後）名にしおはゞやすらはん東路のあさぢが原のいはねふみ 忠房

（夫木廿二）（名寄　信中）たちかへるなをとこそ見れ（よみ人不知）

（名寄）住よしのきしのまつかせ 忠明

蒙羽賑津（こいきつ）　家隆

（万九　古今）わしのすむ筑波の山のかはきつの

物聞山　兼江

（続古集）ゆきのよるの山の谷のそこの（信中名寄）（ゆきゆく　同上）

縑文　同

（夫木）はるさめのふるもの物やまつらかにつゝしの（続後）

（同）あをやきのいとしてゐれて（続和）

唐錦　兼澄　（和名類聚鈔　大唐錦）

（人九集）はつ花のさかりのころ（よみ人しらず）

緒依川　後鳥

（六帖）たちまよふ雲のたえまの人のやまも

（夫木廿四）ころもしのふ川のなかれの（よみ人不知）

甕泊　信中　夫木

（夫木廿三）おもひのあひし人（宗尊）

（同廿五　万代）このまよりもらぬ月の

石瀬川　赤染（此歌建久九年大嘗会主基方信中注風）

（同廿四）名のみにて（新補）

緒葉山　同（山城名所歌）

（家持集）うち山のうちの

（夫木）あふひまつりのうかはの（宗尊）

せ

清和井　山城　出名所

六帖（読人しらす）
たえずやせゐのもとをまちわびしあひなき人はいつとてか

名所集
あはれやせゐの井のくさかりをとるかりやりし涼しかりけり

芹生里　同　同

山家
大原やせりうのさとの雪はれてあけてよもかけ人はかよはさりけり　西行

夫木
おほはらや芹生のさと人あとたえてあはれつもれるさと　家通

同
大原やせき原のさとの月かけのさしいるかたはきよき月かな　定家

同
せきとをも門田のいなほ大原や芹生のさとはさかりいりけり　後法性寺入道

松玉
なるをやる人のこゝろもおほはらやせりうのさとの炭のけふりか

背河　未勘

夫木
ちゝ川やせみのを川の底きよみ人のこゝろもしるくそありける　長明

右長明紀行に川の名をとひしにせみの川といひしとみえたれは長明の
せ川とはこれをいへるにや川とはかけるにてしるしたりけん

石花海（セノウミ）　駿河

万三万葉十七家持
せのうみといふはこの海なりけるをつくしのうみそ

西京河　同（和名　廬原郡　西京　世京郡）

夫木廿四　建長五年五月一日中務卿のもとにて後京極にて
西京川の水脈ましりにしらなみやいはこえぬらしなかれにし月　為氏

同（読人しらす）
おなしくはちりしいはやれ川よりにいまはゆめくりてしゆきぬ　為相

関屋里　同

いはしろやまつらし河原の月はいまもかはらぬやせきのうちに名やかよはし　光俊

関原　美濃　未勘（美濃国　高橋　不破郡）

夫木廿二
いくたひもせきのかはらのたひねしてのちはくさまくらやまたかちかくらむ　仲正

文永元年十月百首　為氏
関の山やまのまへのつゆしけみちかくもゆかすなるみのや

関浦　未勘

夫木
むらさきや磯のくまくま鳴群とたつなみあへてなみなきつ よみ人しらず

須

簀原山 山城

神名上云乙訓郡簀原神社

夫木廿
人こゝろうつるとのこゝろてすかはら山見えうかりしゆふしめおもへと

菅嶋 伊勢

新古
すか嶋をこゝる秋風におもかけやまつれぬらむとよそにこそ伊勢

山家
菅嶋やたふしのこいしわけかへてくろしろまぜよ浦の浜風

同
からす崎の浜のこいしと思ふかな白もまじらぬすか嶋の黒

同
あはせはやさきとからすとこをうたはたふしすか嶋黒白の浜

澄河（夫木廿四 不知国）

同 よみ人

名寄
あはれてふ人のなき世をすみかはのなかれてたえぬおもひなれよ よみ人しらず

須田渡 河内 下総

夫木廿六
ちかくしてかれぬと秋のけきまゝるゝや渡りあなん

同
名をきゝてたのむすたの渡りにはあふせをしたふあはれなる

菅浦 近江

万九
たつ浦のあまの子らとて秋の山くれ浦かたへ今かくるらん

万廿
あさりする菅浦あくる山の月ゆめもぬるれ浦の菅なし

少神（たカナ） 同

玄保集
あまつかみあまくたりましておはしましとふ ゆふかけてかみもなきむかしのことを

杉森（名寄云 又云杉村森） 同 八雲云

ちかやふるかみのもりにてふ秋ふかきかみのしらぬはふかみやまぬん

浅か御てやるいろのこゝろのまつ何ゆへなし

宝方集 ならのむしのあはれに
まつらいさやこゝろさと出つゝ見んとなりてましかし山もりさき

壬二集
涼しくも招きもとむるすはのゝ物思はし思ひやるへき 家隆

為信集 夫木
ちふるゝ今やこやくらしとをちかたにすはの杣のゝり

千載 かへる 夫木 秋村
ふるさとになれしほえもさへやかすはか坂山の闇の杣かり
秋字 秋守

菅野 同 夫木

夫木
秋風に菅野のさそはれ今も旅ゆく人の衣かへすらし 匡房

同
夕されは菅野のさとにふく秋風にぬれのつゆけしや 慈鎮

諏訪 海 湊 湖 信濃

堀百
すはの海の氷の上のかよひちは神のわたりてとくるなりけり 顕仲

山家
春を待すはのわたりもあるものをいつをかきりにすへきつららそ

同
こほりむすふすはの渡りのあちむらのかゝるすはのうみかせ

十五百
すはの海やみなかみのうへのこほりをたのむかされ 貞観

名寄
月さゆるすはの湊のかよひちをたれかこえなむ 隆信

諏訪海のみなかみのかよひちは神のわたるとしるしあるらん 知家

明玉
くまもなきそらのこほりのすはのうみの秋の夜の月 行家

拾玉
世をふれはすはのわたりに旅人もとまりてやいてぬらん 慈鎮

すはのうみをきりてはたてるすはのうみのかよふらん

壬二
すはの海のみなかみとゝもに秋の夜の月

夫木
冬されは神のわたりのこほりとけてすはのうみの月影

同
すはの海とをきかたの衣手さゆる 有家

同
すはの海の氷のうへにかよふらんあさまのけふり 清輔

同
すはの海のみなかみに見えにけりあさまのやま 為家

同
月かけのすはのこほりにくもりなく 同

新拾
すはの海のこほりのうへのかよひちはかみのわたりのしるし 法印公海

同
すはの海のこほりをとふてすきしかはかはやかうらに 同

岩世山　越中

夫木
ちゝや山あさいやむやの霞そらてくてなれとまなきもん　家持

角田川

六帖
あはれなるわたるの関のすみた川なれてみよなやあかとこと

珠洲海　能登　珠洲郡

一万十七
すゝ海に朝ひらきしてこきくれは長浜のうらに月照りにけり　家持

同十八
すゝのあまのおきつみかみにいわたりてかつきとるといふあはひたま　同

堀河
雲隠りなきあくりける鶴の音のおとそきけけるすゝのうらや　仲実

夫木三十雑部家之
かくれあふよるくるきくのあわとなかれこそなかれ　よみ人不知

夫木
いつとてもすゝのうらにてこそ人にうらみくいそある　顕昭

同十二　越中（人のりく人）
あさりけるすゝのうらの鎮あまやとしふるまとまかれきさりけり（さそはん　名寄）　秋季

杉野　越中

一万十九
杉野のにさをとるきゝしいちしろくねにのみなかむこもりつまかも　家持

蔦山　同

同十七
ころもへゆきふる時なくきかの山きさらくのまやなつかしきかも　同

夫木
あきゝふるのまのきかさんたかのまほるさかのむ山ちる　行家

須我鴨（スカノ）　越前

同
あさのあれみしとのるあかなにこゝてきましみやこの八重垣　人丸

深橋　越後　名寄

広田社
かつきやまきゝやこのみちくちかねはよそにのみしてみわたるかも

酬鹿島　能登（八雲　名寄　能也）

一万十二
あさりしほのなつかし彼のいせしまのうしほとかれなん

夫木
こゝもとへこゝのまきりそう鳴のしまのつゆくしみてきゆ

蔦生山　尾　名寄　尾張　名寄

明玉
わかこゝろあこかれ行すゑかけてみの山そ雲のかゝるみね　為家卿女大納言

末野山　未詳

壬二
あられふる末野の山のこのまよりさえくることやみやこなるらん　家隆

夫木
わか君もたのむ末野の山の峯かつ雲ふかみ雪ふるらし　同

（三実卅二延暦十八年九月癸亥遊猟於陶野十六年十月代宮遊猟于陶野天長九年九月乙卯乗輿幸北野試鷹犬猟岳及陶野幸雲林院賜侍従已上禄有差）

須久毛園　同

夫木廿一
時しあれはたくひのまゝの花のいろもえてさきたらしらん　衣笠

未尾里　同

夫木
山とりのをろのはつをのかゝみなる行のみそらにちる雪の花　家隆

菓子山　[illegible]　同

壬二
ふる雪のすゑのまつほのなかりけれはなかはあれぬにおもひこそやれ　同

同
時鳥なくやさつきのゆふくれのうきよのそらのかせそ涼しき

夫木
夏ころもたちかはりてはほとゝきすなくこゑきかぬよはなきかな

同千五百
みなそこの小松かえたのなかりせはまた行すゑもしらぬはかなき

同ふ木
ふるさとのあさちかにほふなみたにもおもひやるかな秋のゆふくれ

菅田社　添下郡菅田神社

夫木
おほきみのみやこのみゆきいつしかもかすかのはらのたひのかりやか　よみ人しらす

須受野　紀伊

続後
しるへせよ行末なかきかたかけてみるかともなくいもにあはなん　信明

菅野

六帖
きみまちてつくるあかたにかなしきはまつこゝろにもなかれきにける

夫木一
菅原やみつのさとの所そさかなかれけりかつらきの山

同十一
秋風の吹にしより菅原のはきのうへの月そさやけき　従二位家隆

松谷

松谷のふもとにやどるうぐひすの峰こそ春のはじめなりけれ　寛仁法師

松生　近江

名にしおはゞ汲まずとも山のなゝふしはなりしからん　安嘉門院四条

（清水納言曰いひつたへの井ハあれ井　渡ハまつる宮のとみ）
（ふいひ佐の山　八雲ニいひしのまつ京　いまと）

百重之京

やまひとのくむてふ水のまことにぞむかしをやみん花のこゝろや

元禄十一年十一月十七日於之年

滿山　光俊

（堀百）よそにのみ見つゝぞすぎむかひのふるさとの人　顕昭

（新中）いかにせむ山の雲やかゝる山かげ秋の月さへかくれなん　衣笠

（続六）名にしおふしのぶの秋の下くさも秋のけしき霧やおくらん

（百九）つくばねの峰のかたにこそ風わたる野辺の田井にかよふなるさ

（門名字）もくもえぬとし

清水しつけれ田井に秋田刈いそぐや見ん夕べのなりけれ

常陸國風土記茨城郡條曰
從郡西南近有河謂信筑之川
源出自筑波之山從西流東經
歷郡中入高濱之海